

令和3年
埼玉県の人口動態概況
(確定数)

令和4年12月

埼玉県保健医療部保健医療政策課

目 次

1	人口動態の概況（令和3年1月～12月）	1
2	各 論	2
(1)	出 生	2
(2)	死 亡	10
(3)	乳児死亡及び新生児死亡	26
(4)	自然増減	27
(5)	死 産	30
(6)	周産期死亡	31
(7)	婚 姻	32
(8)	離 婚	34
(9)	合計特殊出生率	35

巻末（統計資料）

第1表	人口動態の年次推移－埼玉県－	40
第2表	〃 ー全 国ー	42
第3表	人口動態総覧（対前年比較）－埼玉県－	44
第4表	〃 ー全 国ー	45
第5表	死因順位（1～10位）別死亡数・死亡率（人口10万対）の対前年比較	46
第6表	死因簡単分類別死亡数・死亡率（人口10万対）の対前年比較	47
第7表	死亡数，性・年齢（5歳階級）・死因（死因簡単分類）別	51
第8表	人口動態総覧（保健所・市区町村・二次保健医療圏別）	62
第9表	〃 （都道府県別）	66

埼玉県的人口動態概況（確定数）について

これは、厚生労働省が令和3年1月から令和3年12月までの人口動態調査票を集計したものを年計として公表するものです。

【利用上の注意】過去の数値に関する修正について

厚生労働省では、平成16～29年の数値について再集計を実施し、過去数値の修正が反映、公表されました。これを踏まえ、埼玉県においても「平成30年埼玉県の人口動態概況（確定数）」から過去数値の修正を行いました。再集計をおこなった過去数値を確認される場合は、平成30年以降の概況を御覧ください。平成16～29年分の厚生労働省が行った再集計結果を反映させたことにより、平成29年以前の報告書とは数値が一致しない箇所があります。

統計表の表章記号の規約

—	計数のない場合
…	計数不明の場合又は計数を表章することが不適当な場合
・	統計項目のあり得ない場合
0.0	数値の微少（0.05未満）の場合
△	減を表す場合

注：掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合があります。

○ 厚生労働省ホームページにおいて、人口動態統計の調査結果を閲覧できます。

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>

<二次保健医療圏及び保健所>

この概況では以下の二次保健医療圏及び保健所で集計した。

※圏域内保健所は令和3年度時点の状況

二次保健医療圏		圏域内保健所	圏域内市町村
南部保健医療圏		南部保健所	蕨市・戸田市
		川口市保健所	川口市
南西部保健医療圏		朝霞保健所	朝霞市・志木市・和光市・新座市・富士見市・ふじみ野市・三芳町
東部保健医療圏			下記市町
副次圏	東部（北）保健医療圏	春日部保健所	春日部市・松伏町
		越谷市保健所	越谷市
	東部（南）保健医療圏	草加保健所	草加市・八潮市・三郷市・吉川市
さいたま保健医療圏		さいたま市保健所	さいたま市
県央保健医療圏		鴻巣保健所	鴻巣市・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町
川越比企保健医療圏			下記市町村
副次圏	川越比企（北）保健医療圏	東松山保健所	東松山市・滑川町・嵐山町・小川町・川島町・吉見町・ときがわ町・東秩父村
		坂戸保健所	坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町・越生町・鳩山町
	川越比企（南）保健医療圏	川越市保健所	川越市
西部保健医療圏		狭山保健所	所沢市・飯能市・狭山市・入間市・日高市
利根保健医療圏			下記市町
副次圏	利根（北）保健医療圏	加須保健所	行田市・加須市・羽生市
	利根（南）保健医療圏	幸手保健所	久喜市・蓮田市・幸手市・白岡市・宮代町・杉戸町
北部保健医療圏			下記市町
副次圏	北部（東）保健医療圏	熊谷保健所	熊谷市・深谷市・寄居町
	北部（西）保健医療圏	本庄保健所	本庄市・美里町・神川町・上里町
秩父保健医療圏		秩父保健所	秩父市・横瀬町・皆野町・長瀨町・小鹿野町

<用語の解説>

- 1 出 産
出生に死産を加えたものをいう。
- 2 自然増減
出生数から死亡数を減じたものをいう。
- 3 乳児死亡
生後1年未満の死亡をいう。
- 4 新生児死亡
生後4週未満の死亡をいう。
- 5 早期新生児死亡
生後1週未満の死亡をいう。
- 6 死 産
妊娠満12週（妊娠第4月）以後における死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。
- 7 周産期死亡
妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。
- 8 妊産婦死亡
妊娠中又は妊娠終了後満42日未満（昭和53年までは「産後90日以内」、昭和54年から平成6年までは「分娩後42日以内」としている）の女性の死亡で、妊娠の期間及び部位には関係しないが、妊娠もしくはその管理に関連した又はそれらによって悪化したすべての原因によるものをいう。ただし、不慮又は偶発の原因によるものを除く。
- 9 合計特殊出生率
15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値である。
1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
なお、算出に用いた15歳及び49歳の出生数にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。年齢不詳は含まない。

<比率の解説>

$$\begin{aligned}
 \text{出生率・死亡率・婚姻率・離婚率} &= \frac{\text{1年間の事件数}}{\text{10月1日の人口}} \times 1,000 \\
 \text{自然増減率} &= \frac{\text{1年間の自然増減数（出生数－死亡数）}}{\text{10月1日の人口}} \times 1,000 \\
 \text{乳児死亡率} &= \frac{\text{1年間の乳児（出生1年未満）死亡数}}{\text{1年間の出生数}} \times 1,000 \\
 \text{新生児死亡率} &= \frac{\text{1年間の新生児（生後4週未満）死亡数}}{\text{1年間の出生数}} \times 1,000 \\
 \text{死産率（総数・自然・人工）} &= \frac{\text{1年間の死産数}}{\text{1年間の出産数（出生＋死産）}} \times 1,000 \\
 \text{周産期死亡率} &= \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数＋早期新生児（生後1週未満）死亡数}}{\text{1年間の出産数（出生＋妊娠満22週以後の死産数）}} \times 1,000 \\
 \text{妊娠満22週以後の死産率（後期死産率）} &= \frac{\text{1年間の妊娠満22週以後の死産数}}{\text{1年間の出産数（出生＋妊娠満22週以後の死産数）}} \times 1,000 \\
 \text{早期新生児死亡率} &= \frac{\text{1年間の早期新生児（生後1週未満）死亡数}}{\text{1年間の出生数}} \times 1,000 \\
 \text{死因別死亡率} &= \frac{\text{1年間の死因別死亡数}}{\text{10月1日の人口}} \times 100,000 \\
 \text{合計特殊出生率} &= \left[\frac{\text{1年間の母の年齢別出生数}}{\text{10月1日の年齢別女性人口}} \right] \text{の15歳から49歳までの合計} \\
 &\quad \text{（5歳階級で算出する時は5倍する）}
 \end{aligned}$$

<比率算出に用いた人口>

	人口	備考
・全国 ・埼玉県	総務省統計局「人口推計（2021年10月1日現在）」の日本人人口	
・さいたま市保健所 ・さいたま市	厚生労働省「令和3年（2021）人口動態統計（確定数）の概況」の諸率の算出に用いた人口のうち、特別区－指定都市人口（総人口）	（注）左記の人口には年齢別のデータがないため、合計特殊出生率算出には、以下を用いた。 県総務部統計課「埼玉県町（丁）字別人口調査（令和3年1月1日現在）」による人口（人口総数）
・市区町村 （さいたま市を除く）	県総務部統計課「埼玉県推計人口（令和3年10月1日現在）」（人口総数）	

1 人口動態の概況（令和3年1月～12月）

（1）出生数 [減少]

出生数は45,424人で、前年と比べ1,904人減少し、出生率は人口千人に対し6.4で、前年と比べ0.2ポイント低下した。

（2）死亡数 [増加]

死亡数は75,164人で、前年と比べ4,406人増加し、死亡率は人口千人に対し10.5で、前年と比べ0.6ポイント上昇した。

（3）乳児死亡数 [減少]

乳児死亡数は62人で、前年と比べ13人減少し、乳児死亡率は出生千人に対し1.4で、前年と比べ0.2ポイント低下した。

（4）自然増減数 [減少]

自然増減数は△29,740人で、前年と比べ6,310人減少し、自然増減率は人口千人に対し△4.2で、前年と比べ0.9ポイント低下した。

（5）死産数 [減少]

死産数は929胎で、前年と比べ83胎減少し、死産率は出産（出生＋死産）千人（胎）に対し20.0で、前年と比べ0.9ポイント低下した。

（6）周産期死亡数 [減少]

周産期死亡数は126人（胎）で、前年と比べ7人（胎）減少し、周産期死亡率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千人（胎）に対し2.8で、前年と同率であった。

（7）婚姻件数 [減少]

婚姻件数は28,345組で、前年と比べ915組減少し、婚姻率は人口千人に対し4.0で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

（8）離婚件数 [減少]

離婚件数は10,626組で、前年と比べ33組減少し、離婚率は人口千人に対し1.49で、前年と同率であった。

（9）合計特殊出生率 [低下]

合計特殊出生率は1.22で、前年と比べ0.05ポイント低下した。

表－1 人口動態の概況（対前年比較）

	実数 (人、胎、組)			率 ^注			平均発生間隔	
	令和3年	令和2年	対前年増減	令和3年	令和2年	対前年増減	令和3年	令和2年
							時 分 秒	時 分 秒
出生	45 424	47 328	△ 1 904	6.4	6.6	△ 0.2	11 34	11 8
死亡	75 164	70 758	4 406	10.5	9.9	0.6	7 0	7 27
乳児死亡	62	75	△ 13	1.4	1.6	△ 0.2	141 17 25	117 7 12
新生児死亡	21	32	△ 11	0.5	0.7	△ 0.2	417 8 34	274 30 0
自然増減	△ 29 740	△ 23 430	△ 6 310	△ 4.2	△ 3.3	△ 0.9	…	…
死産	929	1 012	△ 83	20.0	20.9	△ 0.9	9 25 46	8 40 47
自然死産	437	447	△ 10	9.4	9.2	0.2	20 2 45	19 39 4
人工死産	492	565	△ 73	10.6	11.7	△ 1.1	17 48 18	15 32 49
周産期死亡	126	133	△ 7	2.8	2.8	-	69 31 26	66 2 42
妊娠満22週以後の死産	110	107	3	2.4	2.3	0.1	79 38 11	82 5 36
早期新生児死亡	16	26	△ 10	0.4	0.5	△ 0.1	547 30 0	337 50 46
婚姻	28 345	29 260	△ 915	4.0	4.1	△ 0.1	18 33	18 1
離婚	10 626	10 659	△ 33	1.49	1.49	-	49 28	49 27

	令和3年	令和2年	対前年増減
合計特殊出生率	1.22	1.27	△ 0.05

注：出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対の率である。

2 各 論

(1) 出 生

ア 出生数及び出生率

令和3年の出生数は45,424人で、前年の47,328人より1,904人減少した。

出生数を年次推移で見ると、昭和48年の106,008人をピークに平成2年まで減少し続け、その後増加と減少を繰り返しながら長期的には減少傾向が続いている。

出生率は人口千人に対し6.4で、前年より0.2ポイント低下した。全国も前年より0.2ポイント低下し、6.6であった。（表-2）

出生率を年次推移で見ると、第2次ベビーブームの昭和46年の24.0以降低下を続け、平成2年に初めて10.0を割り9.9となった。その後平成8年まで10.0を上回る程度で推移していたが、平成9年に再び10.0を割って以降低下傾向であり、令和元年以降は7.0を割り込んでいる。

出生率を全国と比較すると、本県の出生率は平成3年以降、わずかながら全国を上回る状態であった。しかし、平成20年以降は、同率だった平成21年を除き、全国を下回っている。（図-1）

なお、昭和41年にみられる出生率の低下は、丙午（ひのえうま）によるものである。

表-2 出生数及び出生率の年次推移

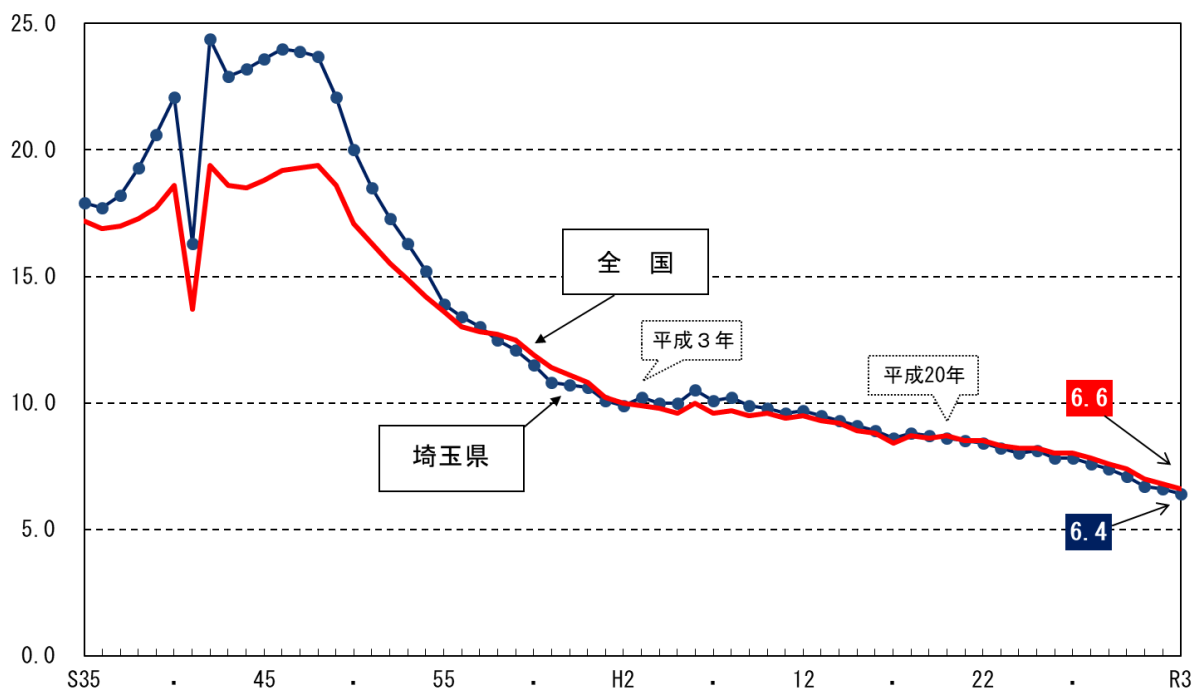
		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750
	全 国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064
率	埼玉県	17.9	22.1	23.6	20.0	13.9	11.5	9.9	10.1
	全 国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6

		12	17	22	27	30	R元	2	3
数	埼玉県	66 376	59 731	59 437	56 078	51 241	48 298	47 328	45 424
	全 国	1 190 547	1 062 530	1 071 305	1 005 721	918 400	865 239	840 835	811 622
率	埼玉県	9.7	8.6	8.4	7.8	7.1	6.7	6.6	6.4
	全 国	9.5	8.4	8.5	8.0	7.4	7.0	6.8	6.6

注：率は人口千対である。

図-1 出生率の年次推移（埼玉県・全国）

出生率（人口千対）



イ 都道府県別にみた出生率

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後、平成7年には4位となったものの、近年は21位から23位の間で横ばいの状況が続いており令和3年は23位であった。（表－3）

表－3 都道府県別にみた出生率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	11.9		全 国	10.0		全 国	9.6		全 国	9.5		全 国	8.4	
	沖 縄	17.6	1	沖 縄	14.0	1	沖 縄	13.2	1	沖 縄	12.8	1	沖 縄	11.9	1
	福 島	13.3	2	滋 賀	11.2	2	愛 知	10.6	2	愛 知	10.8	2	滋 賀	9.5	2
	佐 賀	13.1	3	佐 賀	10.9	3	滋 賀	10.5	3	滋 賀	10.6	3	愛 知	9.4	3
	宮 城	12.9	4	福 島	10.8	4	埼 玉	10.1	4	大 阪	10.2	4	福 井	8.8	4
	宮 崎	12.9	5	愛 知	10.7	5	山 梨	10.1	5	佐 賀	10.0	5	大 阪	8.8	5
	鹿 児 島	12.7	6	長 崎	10.6	6	福 井	10.1	6	兵 庫	10.0	6	神 奈 川	8.8	6
	滋 賀	12.7	7	福 井	10.6	7	福 島	10.0	7	神 奈 川	9.9	7	栃 木	8.7	7
	長 崎	12.7	8	鹿 児 島	10.5	8	大 阪	10.0	8	岡 山	9.8	8	佐 賀	8.7	8
	栃 木	12.7	9	鳥 取	10.4	9	宮 崎	10.0	9	福 井	9.8	9	広 島	8.7	9
	熊 本	12.6	10	宮 城	10.4	10	神 奈 川	9.9	10	石 川	9.8	10	福 岡	8.7	10
	埼 玉	11.5	34	埼 玉	9.9	29				埼 玉	9.7	15	埼 玉	8.6	18
低率順	富 山	10.7	1	高 知	8.7	1	秋 田	8.2	1	秋 田	7.6	1	秋 田	6.7	1
	東 京	10.7	2	山 口	8.8	2	東 京	8.4	2	北 海 道	8.2	2	秋 田	7.3	2
	秋 田	10.9	3	東 京	8.9	3	高 知	8.5	3	高 知	8.4	3	青 森	7.3	3
	高 知	11.1	4	秋 田	9.0	4	山 口	8.6	4	東 京	8.5	4	北 海 道	7.4	4
	京 都	11.1	5	富 山	9.0	5	島 根	8.8	5	島 根	8.6	5	高 知	7.5	5

	22			27			R元			2			3		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	8.5		全 国	8.0		全 国	7.0		全 国	6.8		全 国	6.6	
	沖 縄	12.3	1	沖 縄	11.9	1	沖 縄	10.4	1	沖 縄	10.3	1	沖 縄	10.0	1
	愛 知	9.6	2	滋 賀	9.1	2	福 岡	7.9	2	福 岡	7.7	2	福 岡	7.4	2
	滋 賀	9.6	3	愛 知	9.0	3	愛 知	7.8	3	愛 知	7.6	3	愛 知	7.4	3
	福 岡	9.3	4	福 岡	9.0	4	佐 賀	7.7	4	滋 賀	7.6	4	鹿 児 島	7.4	4
	広 島	9.0	5	熊 本	8.8	5	熊 本	7.7	5	熊 本	7.6	5	熊 本	7.4	5
	宮 崎	9.0	6	東 京	8.6	6	滋 賀	7.7	6	佐 賀	7.5	6	滋 賀	7.4	6
	佐 賀	9.0	7	鹿 児 島	8.6	7	東 京	7.6	7	東 京	7.4	7	佐 賀	7.3	7
	熊 本	9.0	8	佐 賀	8.5	8	宮 崎	7.6	8	鹿 児 島	7.4	8	宮 崎	7.2	8
	鹿 児 島	8.9	9	広 島	8.4	9	鹿 児 島	7.5	9	岡 山	7.3	9	岡 山	7.1	9
	神 奈 川	8.8	10	宮 崎	8.4	10	岡 山	7.3	10	宮 崎	7.3	10	東 京	7.1	10
	埼 玉	8.4	22	埼 玉	7.8	23	埼 玉	6.7	23	埼 玉	6.6	21	埼 玉	6.4	23
低率順	秋 田	6.2	1	秋 田	5.7	1	秋 田	4.9	1	秋 田	4.7	1	秋 田	4.6	1
	青 森	7.1	2	青 森	6.6	2	岩 手	5.7	2	青 森	5.5	2	青 森	5.4	2
	高 知	7.2	3	北 海 道	6.8	3	青 森	5.8	3	岩 手	5.6	3	岩 手	5.4	3
	北 海 道	7.3	4	岩 手	6.9	4	北 海 道	6.0	4	北 海 道	5.7	4	北 海 道	5.6	4
	岩 手	7.4	5	高 知	7.0	5	山 形	6.0	5	山 形	5.9	5	山 形	5.6	5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、朝霞市（8.2）、和光市（8.2）、八潮市（8.1）の順である。

また、低率順では、東秩父村（2.3）、小鹿野町（2.4）、川島町（2.7）の順である。（表－4、図－2）

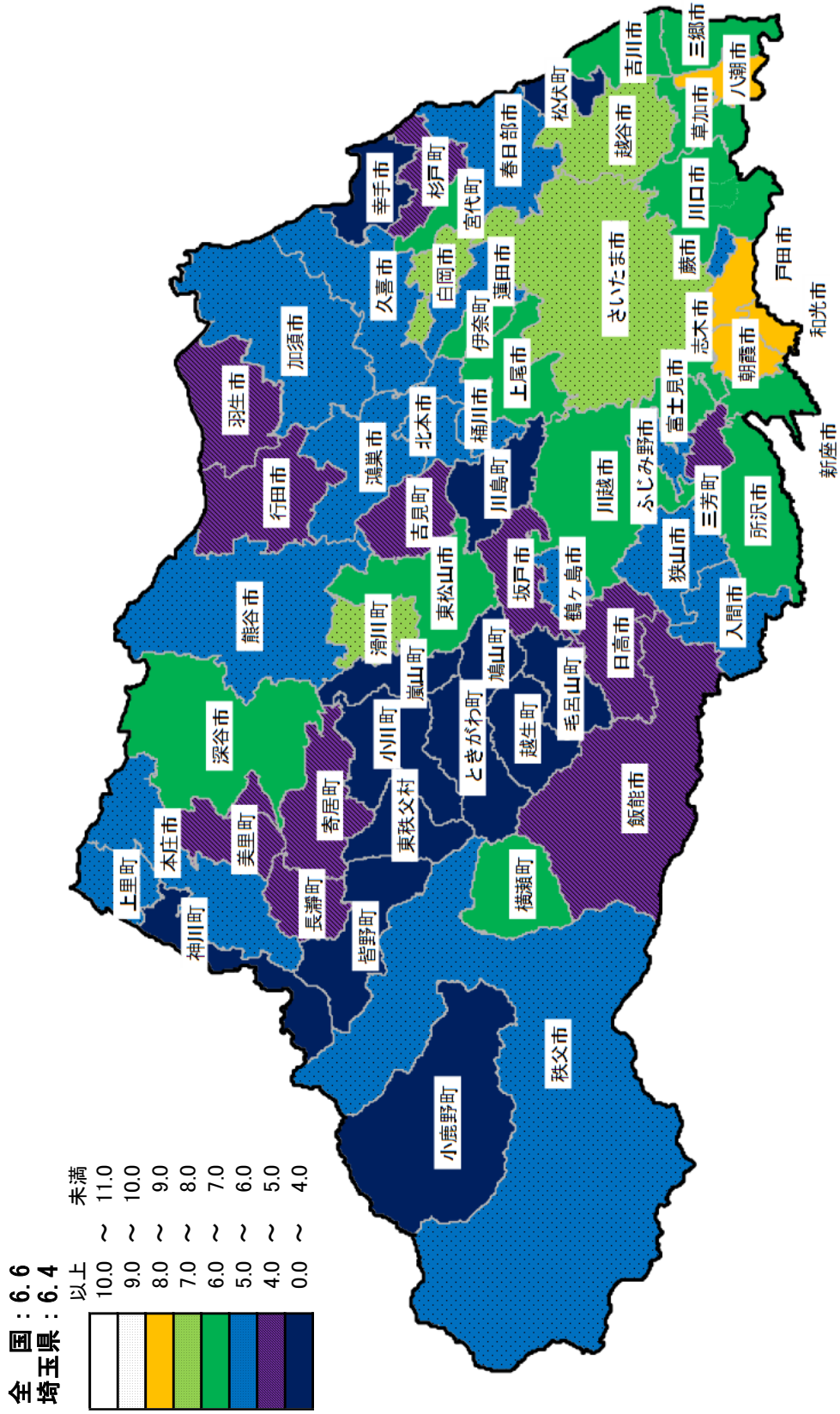
表－4 市町村別にみた出生率（高率順）

埼玉県								
順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	朝霞市	8.2	22	草加市	6.0	43	坂戸市	4.8
2	和光市	8.2	23	横瀬町	6.0	44	行田市	4.6
3	八潮市	8.1	24	本庄市	5.9	45	吉見町	4.5
4	戸田市	8.0	25	鶴ヶ島市	5.8	46	飯能市	4.4
5	滑川町	7.7	26	ふじみ野市	5.7	47	長瀨町	4.3
6	さいたま市	7.3	27	熊谷市	5.6	48	美里町	4.3
7	白岡市	7.0	28	鴻巣市	5.6	49	寄居町	4.0
8	越谷市	7.0	29	桶川市	5.6	50	杉戸町	4.0
9	吉川市	6.8	30	狭山市	5.5	51	松伏町	3.8
10	三郷市	6.8	31	蓮田市	5.4	52	皆野町	3.8
11	志木市	6.8	32	入間市	5.3	53	嵐山町	3.8
12	富士見市	6.7	33	蕨市	5.3	54	越生町	3.7
13	宮代町	6.4	34	春日部市	5.3	55	鳩山町	3.7
14	新座市	6.3	35	久喜市	5.2	56	幸手市	3.6
15	上尾市	6.3	36	加須市	5.2	57	神川町	3.6
16	所沢市	6.2	37	上里町	5.1	58	毛呂山町	3.0
17	伊奈町	6.2	38	北本市	5.0	59	ときがわ町	2.9
18	川口市	6.1	39	秩父市	5.0	60	小川町	2.8
19	深谷市	6.1	40	三芳町	4.9	61	川島町	2.7
20	東松山市	6.1	41	羽生市	4.9	62	小鹿野町	2.4
21	川越市	6.0	42	日高市	4.8	63	東秩父村	2.3

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図一2 出生率(人口千対)一市町村別状況一



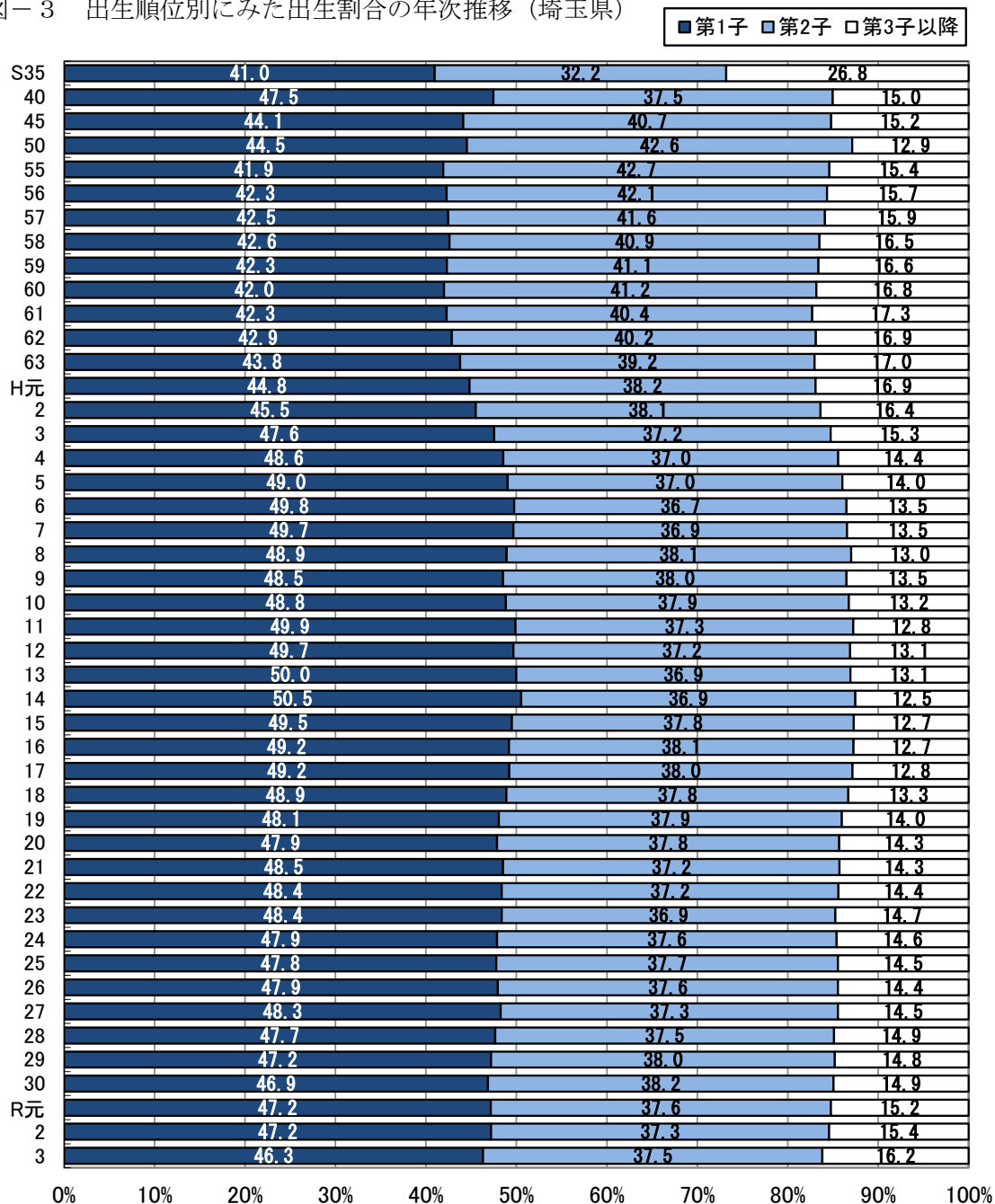
エ 出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は平成14年に50.5%となった後、40%台後半で推移している。令和3年は46.3%となり、前年を0.9ポイント下回った。

また、第2子の割合は昭和55年（42.7%）をピークに、昭和63年以後は30%台後半で推移している。令和3年は37.5%と前年を0.2ポイント上回った。

第3子以降の割合は、昭和35年には26.8%と全体の3割近くを占めていたものの、平成4年以降は10%台前半で推移していた。しかし、令和元年に15%を上回り、令和3年は前年を0.8ポイント上回り16.2%であった。（図-3、表-5）

図-3 出生順位別にみた出生割合の年次推移（埼玉県）



注：昭和40年以前の第3子以降には、出生順位不詳を含む。

表一 5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

埼玉県

	出 生 数						構 成 割 合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降
							%	%	%	%	%	%
S 35	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.6	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	1.9	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.5
56	73 917	31 259	31 087	9 962	1 239	370	100.0	42.3	42.1	13.5	1.7	0.5
57	72 689	30 867	30 264	9 936	1 269	353	100.0	42.5	41.6	13.7	1.7	0.5
58	71 144	30 316	29 100	10 066	1 286	376	100.0	42.6	40.9	14.1	1.8	0.5
59	69 556	29 440	28 575	9 914	1 271	356	100.0	42.3	41.1	14.3	1.8	0.5
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.5
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
H 元	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.4	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.6	37.2	12.8	2.0	0.4
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.2	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.4
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.8	37.9	11.1	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.5
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	36.9	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.5
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.6
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6
22	59 437	28 748	22 138	6 886	1 289	376	100.0	48.4	37.2	11.6	2.2	0.6
23	58 059	28 081	21 419	6 902	1 255	402	100.0	48.4	36.9	11.9	2.2	0.7
24	56 943	27 253	21 385	6 710	1 230	365	100.0	47.9	37.6	11.8	2.2	0.6
25	57 470	27 463	21 694	6 699	1 221	393	100.0	47.8	37.7	11.7	2.1	0.7
26	55 765	26 732	20 980	6 443	1 229	381	100.0	47.9	37.6	11.6	2.2	0.7
27	56 078	27 071	20 896	6 570	1 156	385	100.0	48.3	37.3	11.7	2.1	0.7
28	54 452	25 950	20 393	6 473	1 206	430	100.0	47.7	37.5	11.9	2.2	0.8
29	53 076	25 057	20 165	6 285	1 169	400	100.0	47.2	38.0	11.8	2.2	0.8
30	51 241	24 013	19 571	6 118	1 152	387	100.0	46.9	38.2	11.9	2.2	0.8
R 元	48 298	22 781	18 157	5 857	1 126	377	100.0	47.2	37.6	12.1	2.3	0.8
2	47 328	22 346	17 674	5 733	1 196	379	100.0	47.2	37.6	12.1	2.3	0.8
3	45 424	21 041	17 032	5 731	1 209	411	100.0	46.3	37.5	12.6	2.7	0.9

注1：昭和40年以前の第3子以降には、出生順位不詳を含む。

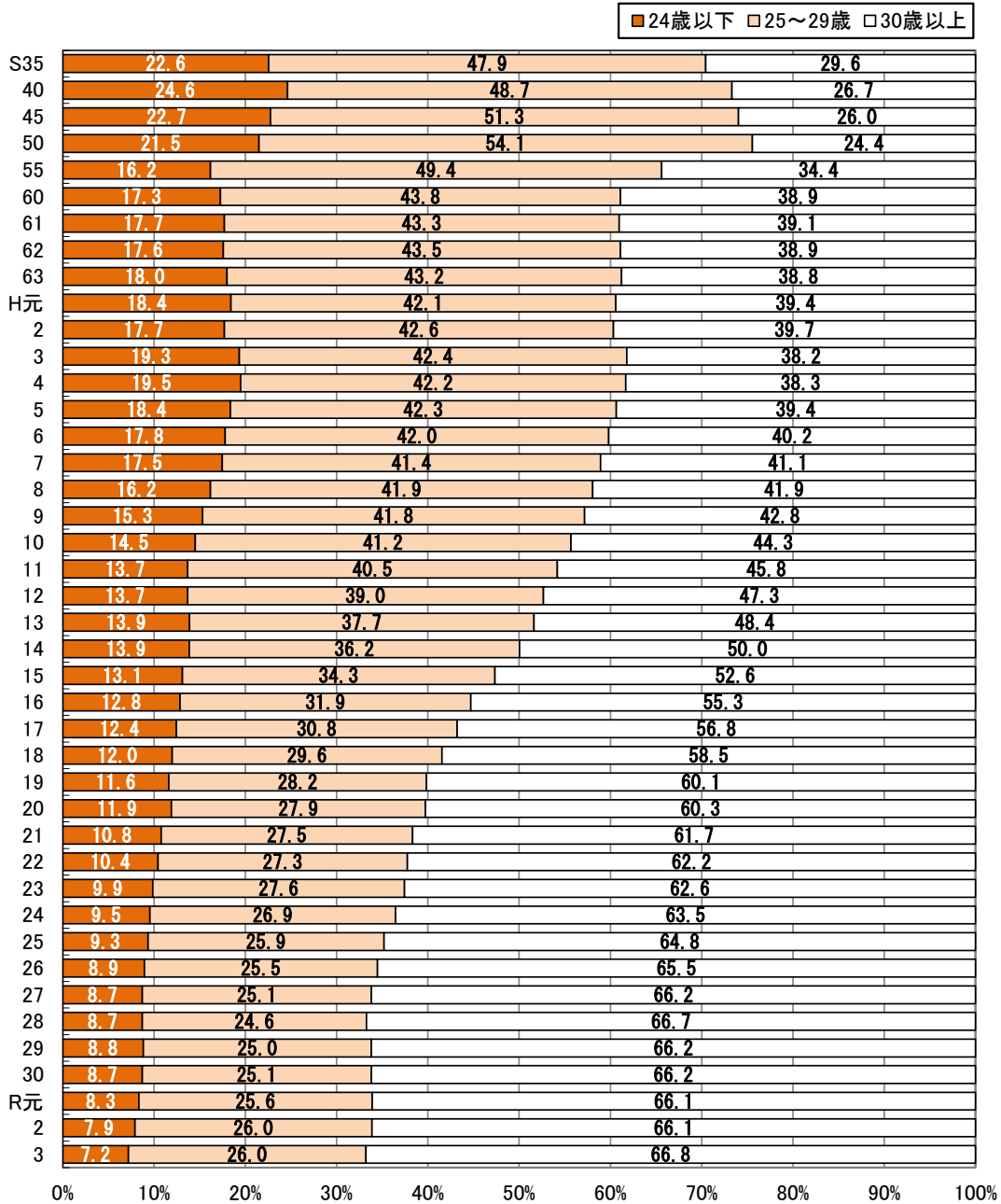
オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少傾向にあり、平成19年からはピーク時の2分の1を下回っている。ただし、平成29年からはやや増加に転じ、令和3年は26.0%と前年と同率であった。

また、24歳以下の割合も平成5年以降減少傾向にある。令和3年は7.2%と前年を0.7ポイント下回った。

一方、30歳以上の割合は平成4年以降一貫して増加していたが、平成29年以降はやや減少しているが、令和3年は66.8%と前年を0.7ポイント上回った。平成19年以降は出生数全体の6割以上を占めている。（図－4、表－6）

図－4 母の年齢階級別にみた出生割合の年次推移（埼玉県）



注：年齢不詳を除く出生数に対する割合である。

(2) 死 亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は75,164人で、前年の70,758人より4,406人増加した。

死亡率は人口千人に対し10.5で、前年の9.9を0.6ポイント上回った。全国（11.7）と比較すると1.2ポイント下回っている。

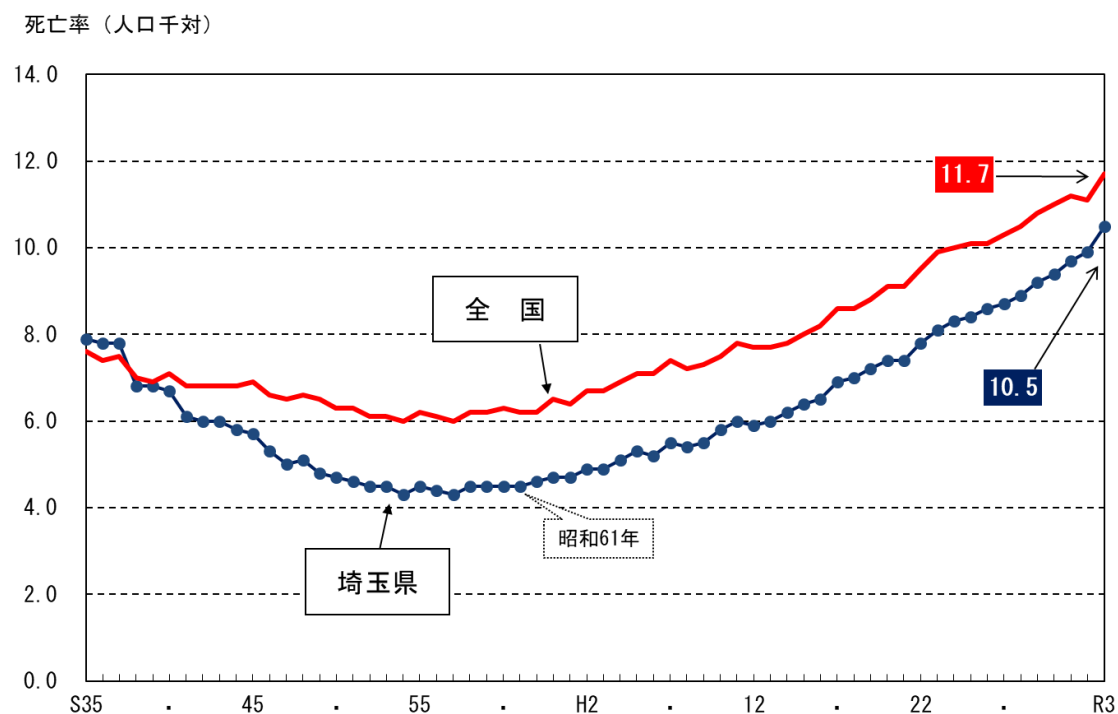
死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年6.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表－7、図－5）

表－7 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799
	全 国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5
	全 国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4
		12	17	22	27	30	R元	2	3
数	埼玉県	40 486	48 095	55 487	62 566	67 726	69 537	70 758	75 164
	全 国	961 653	1 083 796	1 197 014	1 290 510	1 362 470	1 381 093	1 372 755	1 439 856
率	埼玉県	5.9	6.9	7.8	8.7	9.4	9.7	9.9	10.5
	全 国	7.7	8.6	9.5	10.3	11.0	11.2	11.1	11.7

注：率は人口千対である。

図－5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位、平成 27 年～29 年は第 4 位、平成 30 年は第 5 位、令和元～3 年は第 6 位となっている。

(表－8)

表－8 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高 率 順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	鳥 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	鳥 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	鳥 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低 率 順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
	22			27			R元			2			3		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高 率 順	全 国	9.5		全 国	10.3		全 国	11.2		全 国	11.1		全 国	11.7	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.5	1	秋 田	16.4	1	秋 田	16.1	1	秋 田	17.0	1
	高 知	12.8	2	島 根	13.9	2	高 知	14.9	2	高 知	14.6	2	青 森	15.4	2
	島 根	12.8	3	高 知	13.8	3	青 森	14.9	3	青 森	14.5	3	高 知	15.3	3
	山 口	12.3	4	山 形	13.4	4	山 形	14.7	4	島 根	14.5	4	島 根	15.0	4
	山 形	12.1	5	青 森	13.1	5	岩 手	14.6	5	山 形	14.5	5	山 形	15.0	5
	和 歌 山	12.1	6	徳 島	13.1	6	島 根	14.6	6	岩 手	14.3	6	岩 手	14.8	6
	鹿 児 島	11.9	7	和 歌 山	13.1	7	山 口	14.2	7	山 口	13.9	7	徳 島	14.8	7
	徳 島	11.9	8	山 口	13.1	8	徳 島	14.0	8	徳 島	13.9	8	山 口	14.8	8
	岩 手	11.9	9	鹿 児 島	13.0	9	和 歌 山	14.0	9	和 歌 山	13.8	9	新 潟	14.3	9
鳥 取	11.9	10	岩 手	12.9	10	新 潟	13.9	10	愛 媛	13.6	10	愛 媛	14.3	10	
低 率 順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	8.0	1	沖 縄	8.7	1	沖 縄	8.6	1	沖 縄	9.4	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.4	2	東 京	9.0	2	東 京	9.0	2	東 京	9.5	2
	埼 玉	7.8	3	東 京	8.5	3	神 奈 川	9.3	3	神 奈 川	9.4	3	滋 賀	9.9	3
	愛 知	8.1	4	埼 玉	8.7	4	滋 賀	9.5	4	滋 賀	9.4	4	神 奈 川	10.0	4
	東 京	8.1	5	愛 知	8.8	5	愛 知	9.6	5	愛 知	9.7	5	愛 知	10.2	5
						埼 玉	9.7	6	埼 玉	9.9	6	埼 玉	10.5	6	

注 1：率は人口千対である。

注 2：順位の数出には、小数点第 2 位以下を考慮している。

ウ 死因

(ア) 死因順位

令和3年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 20,576人（死亡総数の27.4%）、第2位は心疾患 11,510人（15.3%）、第3位は老衰 6,896人（9.2%）、第4位は脳血管疾患 5,188人（6.9%）、第5位は肺炎 4,778人（6.4%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、老衰（96.4）が14.8ポイント、心疾患（160.9）が9.2ポイント、誤嚥性肺炎（29.6）が4.6ポイント、脳血管疾患（72.5）が3.7ポイント、肺炎（66.8）が2.4ポイント、間質性肺疾患（17.3）が2.3ポイント、悪性新生物（287.7）が1.9ポイント、腎不全（20.6）が1.1ポイント、不慮の事故（21.8）が0.5ポイント上昇した。

一方、自殺（15.2）が1.0ポイント低下した。

（表－9）

表－9 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

埼玉県

死 因	令和3年			令和2年			令和2年との比較		
	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合
総 数	75 164	1 051.0	100.0	70 758	988.4	100.0	4 406	62.6	
悪 性 新 生 物	20 576	287.7	27.4	20 463	285.8	28.9	113	1.9	△ 1.5
心 疾 患	11 510	160.9	15.3	10 857	151.7	15.3	653	9.2	－
老 衰	6 896	96.4	9.2	5 842	81.6	8.3	1 054	14.8	0.9
脳 血 管 疾 患	5 188	72.5	6.9	4 929	68.8	7.0	259	3.7	△ 0.1
肺 炎	4 778	66.8	6.4	4 607	64.4	6.5	171	2.4	△ 0.1
誤 嚥 性 肺 炎	2 120	29.6	2.8	1 790	25.0	2.5	330	4.6	0.3
不 慮 の 事 故	1 560	21.8	2.1	1 528	21.3	2.2	32	0.5	△ 0.1
腎 不 全	1 476	20.6	2.0	1 398	19.5	2.0	78	1.1	－
間 質 性 肺 疾 患	1 237	17.3	1.6	1 074	15.0	1.5	163	2.3	0.1
自 殺	1 088	15.2	1.4	1 159	16.2	1.6	△ 71	△ 1.0	△ 0.2
小 計	56 429	789.0	75.1	53 647	749.4	75.8	2 782	39.6	△ 0.7
そ の 他	18 735	262.0	24.9	17 111	239.0	24.2	1 624	23.0	0.7

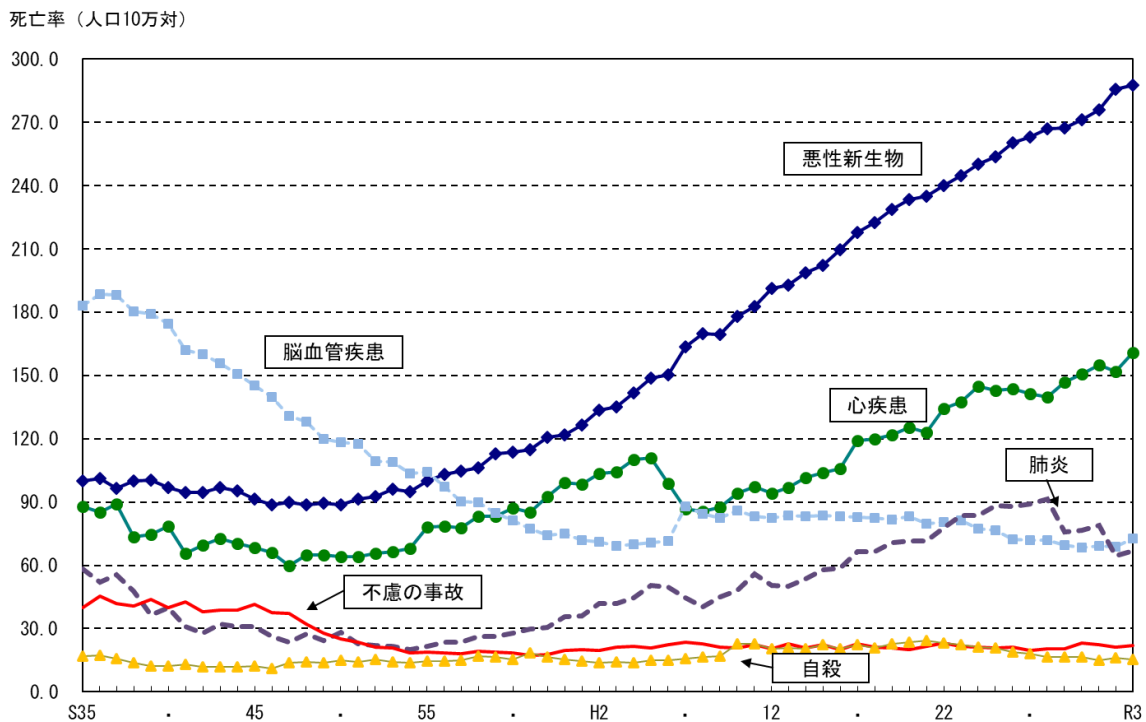
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、令和3年は287.7となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、令和3年の死亡総数に占める割合は27.4%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。令和3年の死亡総数に占める割合は15.3%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には肺炎にかわり第4位となり、令和3年の死亡総数に占める割合は6.9%となっている。（表-9、図-6）

なお、平成6、7年の心疾患及び平成7年の脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図-6の「注」を参照）。

図-6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

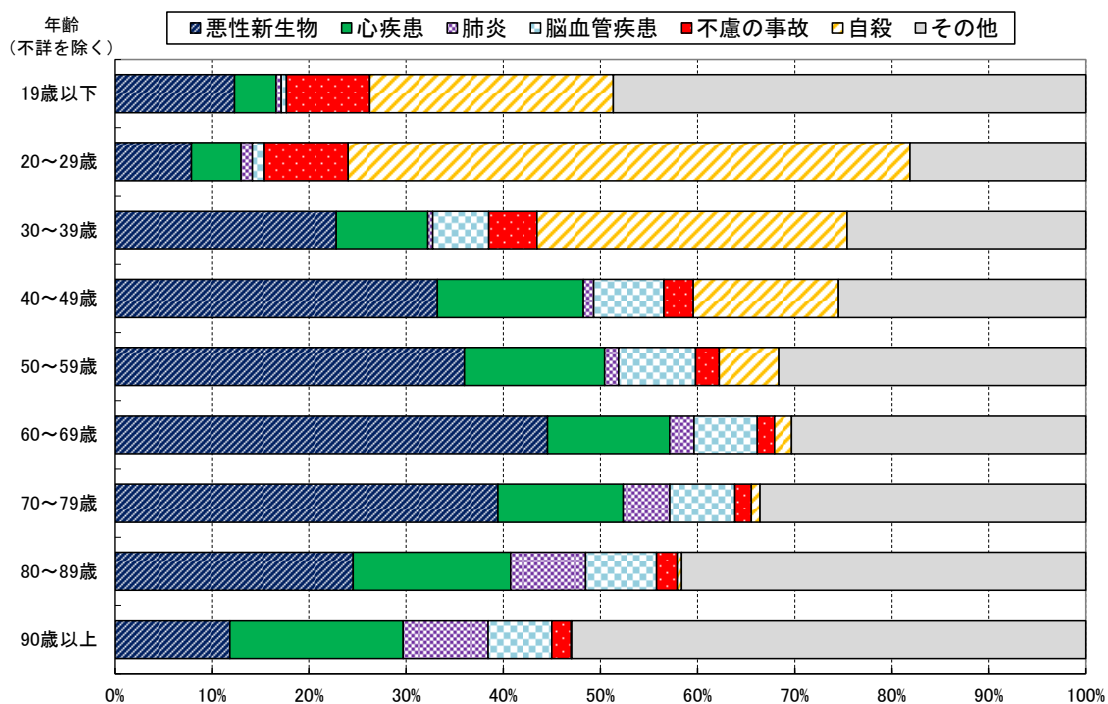
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。なお、逆に肺炎は減少している。

平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、平成29年1月適用の死因分類による原因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

年齢階級別に主要死因別割合をみると、30歳代以下では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図－7）

図－7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



(イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は20,576人で、死亡総数の27.4%を占めており、全死亡者のおよそ10人に3人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が7,203人で最も多く、次いで80～89歳が6,923人、60～69歳が2,712人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が44.5%で最も多く、次いで70～79歳が39.4%、50～59歳が36.0%となっている。（表－10）

死亡率は人口10万人に対し287.7で、前年より1.9ポイント上昇した。全国は前年より4.1ポイント上昇し310.7である。埼玉県及び全国の死亡率は上昇を続けている。

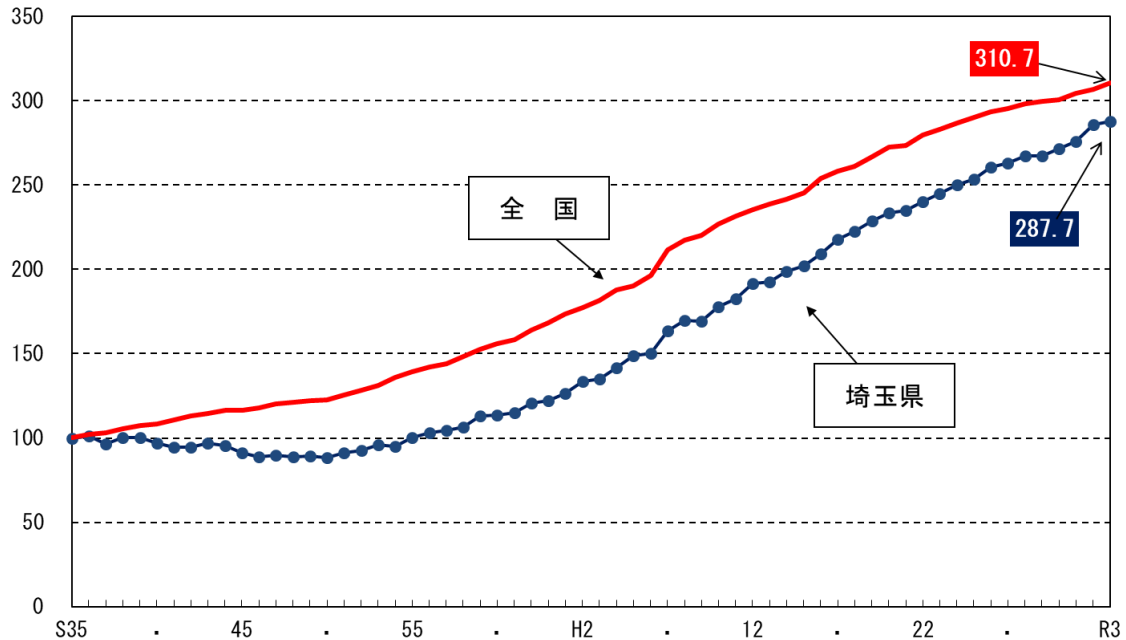
（図－8）

表－10 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	75 164	187	254	382	1 298	3 114	6 088	18 260	28 215	17 364	2
悪性新生物による死亡数	20 576	23	20	87	431	1 122	2 712	7 203	6 923	2 055	－
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.4%	2.1%	5.5%	13.2%	35.0%	33.6%	10.0%	－
死亡総数に占める割合	27.4%	12.3%	7.9%	22.8%	33.2%	36.0%	44.5%	39.4%	24.5%	11.8%	－

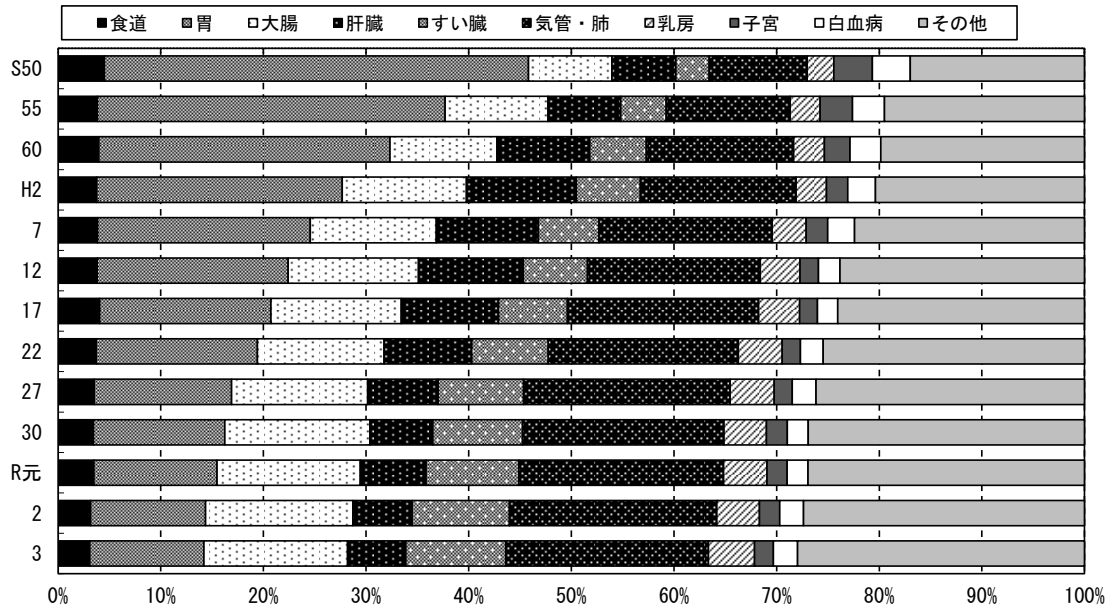
図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が4,061人（19.7%）で最も多く、平成14年以降第1位となっている。また、平成28年に「大腸」が初めて「胃」を上回り第2位となった。令和3年は「大腸」が2,877人（14.0%）、「胃」が2,289人（11.1%）である。（図－9、表－11）

図－9 悪性新生物の部位別死亡割合の推移（埼玉県）



表－11 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移（埼玉県）

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 823	19 791	20 463	20 576
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	662	691	648	635
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 520	2 373	2 290	2 289
大腸	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 494	2 762	2 940	2 877
（結腸）	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 694	1 864	2 017	1 947
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	800	898	923	930
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 294	1 267	1 181	1 166
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 567	1 790	1 937	2 007
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 788	3 949	4 136	4 061
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	806	838	850	926
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	331	388	403	376
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	435	403	475	486
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 926	5 330	5 603	5 753
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.5	3.5	3.2	3.1
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	13.4	12.0	11.2	11.1
大腸	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.2	14.0	14.4	14.0
（結腸）	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.0	9.4	9.9	9.5
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	4.5
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	6.9	6.4	5.8	5.7
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	8.3	9.0	9.5	9.8
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	20.1	20.0	20.2	19.7
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.3	4.2	4.2	4.5
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	1.8	2.0	2.0	1.8
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.3	2.0	2.3	2.4
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.2	26.9	27.4	28.0

(ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は11,510人で、死亡総数の15.3%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が4,578人で最も多く、次いで90歳以上が3,100人、70～79歳が2,364人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が17.9%で最も多く、次いで80～89歳が16.2%、40～49歳が15.0%の順となっている。（表－12）

死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死因分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せ、その後は上昇傾向にある。

令和3年は前年より9.2ポイント上昇し160.9であった。全国は前年より8.3ポイント上昇し174.9である。（図－10）

表－12 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	75 164	187	254	382	1 298	3 114	6 088	18 260	28 215	17 364	2
心疾患による死亡数	11 510	8	13	36	195	449	767	2 364	4 578	3 100	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.3%	1.7%	3.9%	6.7%	20.5%	39.8%	26.9%	-
死亡総数に占める割合	15.3%	4.3%	5.1%	9.4%	15.0%	14.4%	12.6%	12.9%	16.2%	17.9%	-

図－10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(エ) 肺炎

肺炎による死亡数は4,778人で、死亡総数の6.4%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,173人で最も多く、次いで90歳以上が1,518人、70～79歳が871人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が8.7%で最も多く、次いで80～89歳が7.7%、70～79歳が4.8%の順となっている。（表－13）

死亡率（人口10万対）は総じて上昇傾向にあったが、平成29年1月適用の死因分類による原死因選択ルールの明確化による影響から、平成29年に大幅に低下している。令和3年は前年より2.4ポイント上昇し66.8となった。全国は前年より4.0ポイント低下し59.6となった。（図－11）

表－13 肺炎による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	75 164	187	254	382	1 298	3 114	6 088	18 260	28 215	17 364	2
肺炎による死亡数	4 778	1	3	2	14	45	151	871	2 173	1 518	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	-	-	0.0%	0.3%	0.9%	3.2%	18.2%	45.5%	31.8%	-
死亡総数に占める割合	6.4%	-	-	0.5%	1.1%	1.4%	2.5%	4.8%	7.7%	8.7%	-

図－11 肺炎による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



(オ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,188人で、死亡総数の6.9%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,068人で最も多く、次いで70～79歳が1,217人、90歳以上が1,139人の順となっている。

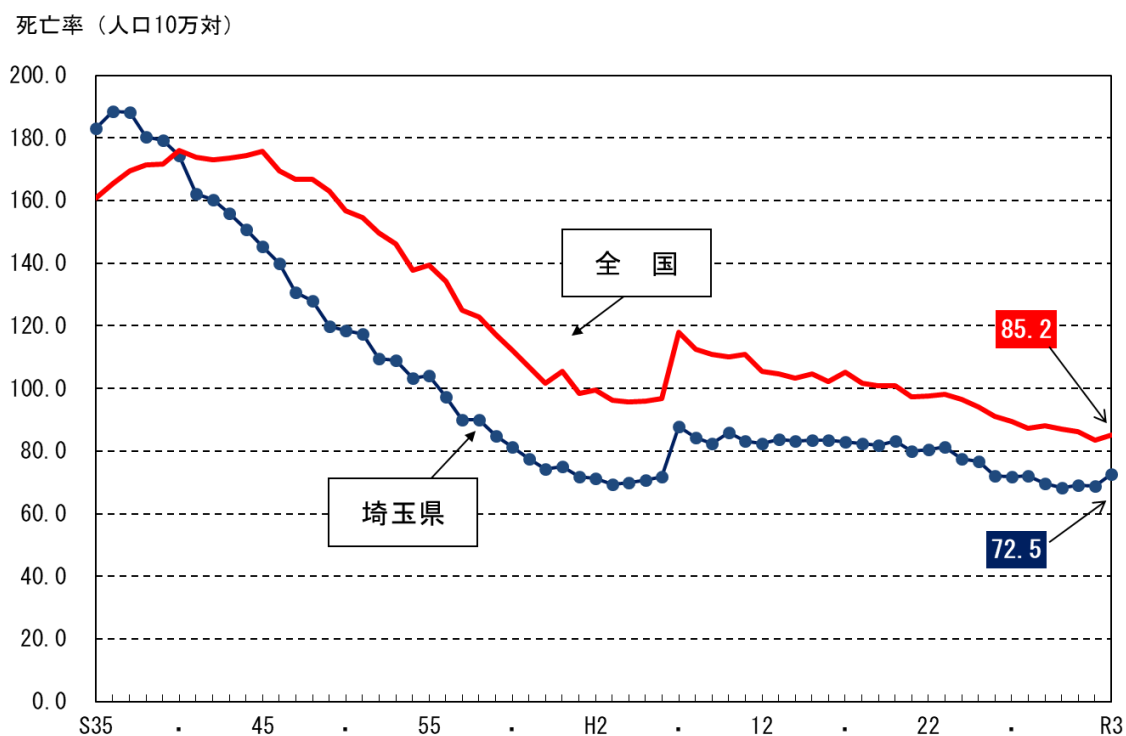
また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、50～59歳が7.9%で最も多く、次いで80～89歳が7.3%、40～49歳が7.2%の順となっている。（表－14）

死亡率（人口10万対）は総じて低下傾向で、令和3年は前年より3.7ポイント上昇し72.5であった。全国は前年より1.7ポイント上昇し85.2である。（図－12）

表－14 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	75 164	187	254	382	1 298	3 114	6 088	18 260	28 215	17 364	2
脳血管疾患による死亡数	5 188	1	3	22	94	246	398	1 217	2 068	1 139	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.0%	0.1%	0.4%	1.8%	4.7%	7.7%	23.5%	39.9%	22.0%	-
死亡総数に占める割合	6.9%	0.5%	1.2%	5.8%	7.2%	7.9%	6.5%	6.7%	7.3%	6.6%	-

図－12 脳血管疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



(カ) 不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,560人で、死亡総数の2.1%を占めている。前年より32人増加した。

年齢階級別にみると、80～89歳が610人で最も多く、次いで90歳以上が352人、70～79歳が315人の順となっている。（表－15）

死亡率（人口10万対）は前年より0.5ポイント上昇し21.8であった。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は減少傾向にあるが、令和3年の死亡数は177人で、前年より10人増加した。死亡率（人口10万対）は前年から0.2ポイント上昇し2.5であった。

なお全国では、不慮の事故が前年より0.3ポイント上昇し31.2、交通事故が前年より0.1ポイント低下し2.9であった。（表－16）

表－15 不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県											
	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	75 164	187	254	382	1 298	3 114	6 088	18 260	28 215	17 364	2
不慮の事故による死亡数	1 560	16	22	19	39	77	110	315	610	352	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	1.0%	1.4%	1.2%	2.5%	4.9%	7.1%	20.2%	39.1%	22.6%	-
死亡総数に占める割合	2.1%	8.6%	8.7%	5.0%	3.0%	2.5%	1.8%	1.7%	2.2%	2.0%	-
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	177	7	11	7	13	20	17	52	42	8	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	4.0%	6.2%	4.0%	7.3%	11.3%	9.6%	29.4%	23.7%	4.5%	-
不慮の事故に占める交通事故の割合	11.3%	43.8%	50.0%	36.8%	33.3%	26.0%	15.5%	16.5%	6.9%	2.3%	-

表－16 不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

	不慮の事故				交通事故					
	埼玉県		全国		埼玉県			全国		
	数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	数	率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合
S 35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5
40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	22.3	55.6	16 257	16.5	40.5
45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.5	61.5	21 535	20.9	49.2
50	1 201	25.0	33 710	30.3	628	13.1	52.3	14 206	12.8	42.1
55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2
60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8
H 2	1 262	19.8	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
17	1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2
22	1 635	23.0	40 732	32.2	300	4.2	18.3	7 222	5.7	17.7
27	1 406	19.6	38 310	30.6	252	3.5	17.9	5 646	4.5	14.7
29	1 462	20.4	40 332	32.4	239	3.3	16.3	5 004	4.0	12.4
30	1 661	23.1	41 238	33.2	221	3.1	13.3	4 595	3.7	11.1
R 元	1 602	22.3	39 184	31.7	196	2.7	12.2	4 279	3.5	10.9
2	1 528	21.3	38 133	30.9	167	2.3	10.9	3 718	3.0	9.8
3	1 560	21.8	38 355	31.2	177	2.5	11.3	3 536	2.9	9.2

注：昭和35年から平成2年は「自動車事故」の数、平成7年以降は「交通事故」の数である。

(キ) 自殺

自殺による死亡数は1,088人（男性711人、女性377人）で、前年より71人減少し、死亡総数の1.4%を占めている。死亡率は人口10万人に対し15.2で、前年より1.0ポイント低下した。（表-17）

表-17 自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3	
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 642	1 287	1 078	1 159	1 088
	全国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	29 554	23 152	19 425	20 243	20 291
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.6	15.5	13.9	15.6	20.6	22.4	23.1	18.0	15.0	16.2	15.2
	全国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	23.4	18.5	15.7	16.4	16.5

注：率は人口10万対である。

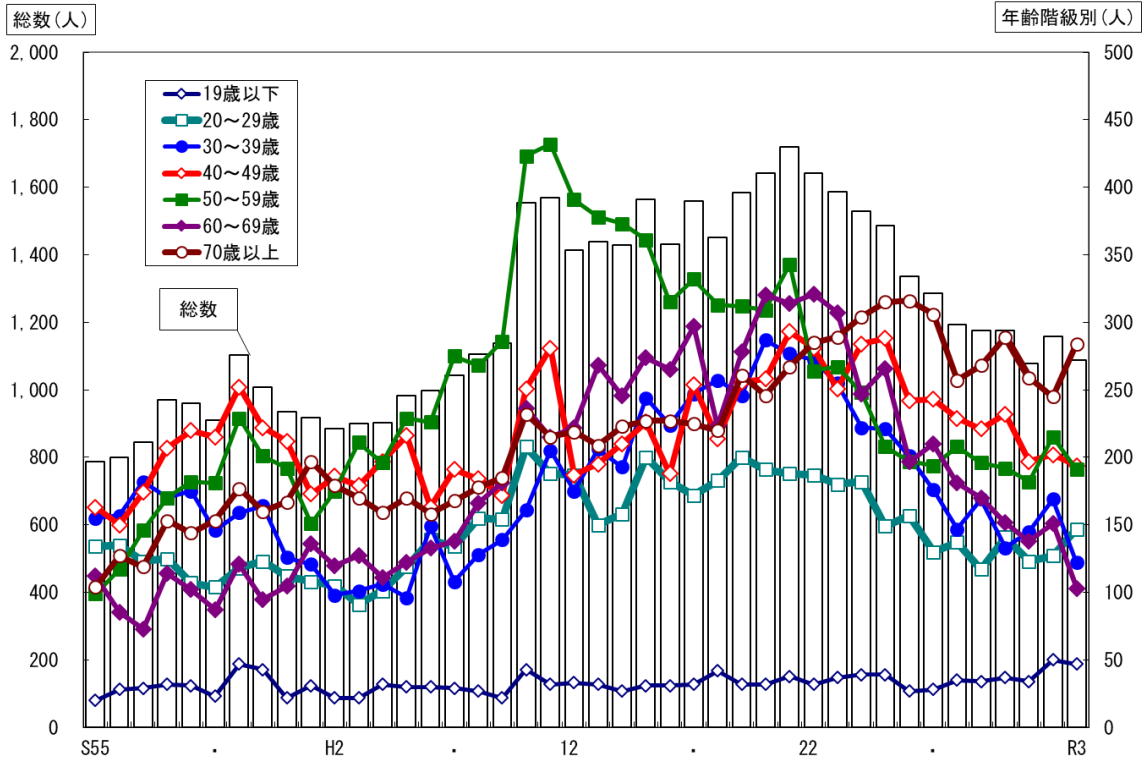
表-18 自殺による死亡数及び割合の年次推移（年齢階級別）

		埼玉県								
		総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
		人	人	人	人	人	人	人	人	
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50	
	40	375	32	88	65	36	37	59	58	
	45	480	28	117	81	53	57	62	82	
	50	723	32	158	128	119	60	104	122	
	55	787	20	134	155	163	99	112	104	
	60	909	23	104	146	215	181	87	153	
H	2	885	22	105	98	186	175	120	179	
	7	1 043	29	134	108	191	275	138	168	
	12	1 414	33	187	175	187	391	222	219	
	17	1 559	32	172	247	254	332	297	225	
	22	1 642	32	187	272	281	264	321	285	
	27	1 287	28	130	176	243	194	210	306	
R元	30	1 176	37	141	133	232	192	152	289	
	元	1 078	34	123	145	197	182	138	259	
	2	1 159	50	127	169	202	215	151	245	
	3	1 088	47	147	122	194	191	103	284	
			%	%	%	%	%	%	%	%
	S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.7	11.4	12.1
40		100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5	
45		100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1	
50		100.0	4.4	21.9	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9	
55		100.0	2.5	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2	
60		100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8	
H	2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.6	20.2	
	7	100.0	2.8	12.8	10.4	18.3	26.4	13.2	16.1	
	12	100.0	2.3	13.2	12.4	13.2	27.7	15.7	15.5	
	17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4	
	22	100.0	1.9	11.4	16.6	17.1	16.1	19.5	17.4	
	27	100.0	2.2	10.1	13.7	18.9	15.1	16.3	23.8	
R元	30	100.0	3.1	12.0	11.3	19.7	16.3	12.9	24.6	
	元	100.0	3.2	11.4	13.5	18.3	16.9	12.8	24.0	
	2	100.0	4.3	11.0	14.6	17.4	18.6	13.0	21.1	
	3	100.0	4.3	13.5	11.2	17.8	17.6	9.5	26.1	

注：70歳以上には年齢不詳を含む。

自殺による死亡総数は近年減少傾向で、令和3年の死亡数を年齢階級別にみると、20歳～29歳、70歳以上を除き減少した。（表-18、図-13）

図-13 自殺による死亡数の年次推移（年齢階級別）（埼玉県）



(ク) 妊産婦死亡

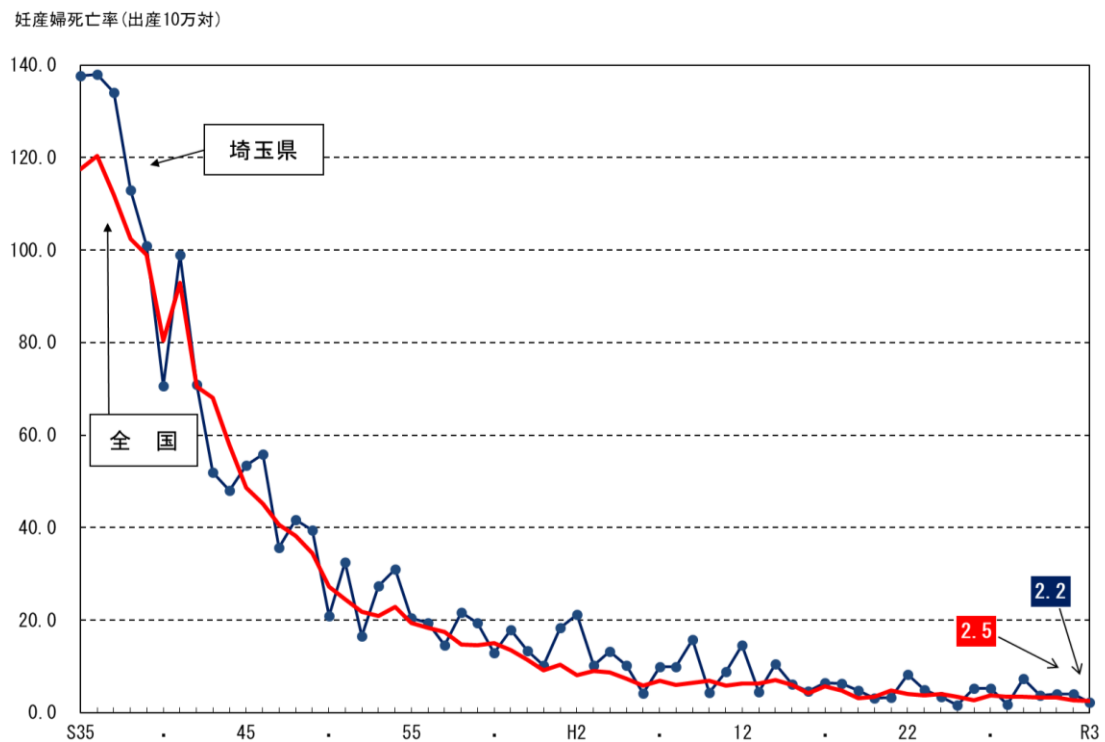
妊産婦死亡数は1人で、前年より1人減少した。 妊産婦死亡率（出産（出生＋死産）10万対）は前年より1.9ポイント低下し2.2であった。 全国の妊産婦死亡率は前年より0.2ポイント低下し2.5である。（表－19、図－14）

表－19 妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10	4	5	3	2	2	1
	全国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78	62	45	39	29	23	21
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6	6.5	8.2	5.2	4.0	4.1	2.2
	全国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	4.1	3.8	3.3	2.7	2.5

注：率は出産（出生＋死産）10万対である。

図－14 妊産婦死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



エ 市町村別にみた死亡率

死亡率（人口千対）を市町村別にみると、低率順では、和光市（6.5）、戸田市（7.2）、朝霞市（7.8）の順である。

また、高率順では、東秩父村（23.7）、小鹿野町（19.3）、長瀨町（18.5）の順である。（表-20、図-15）

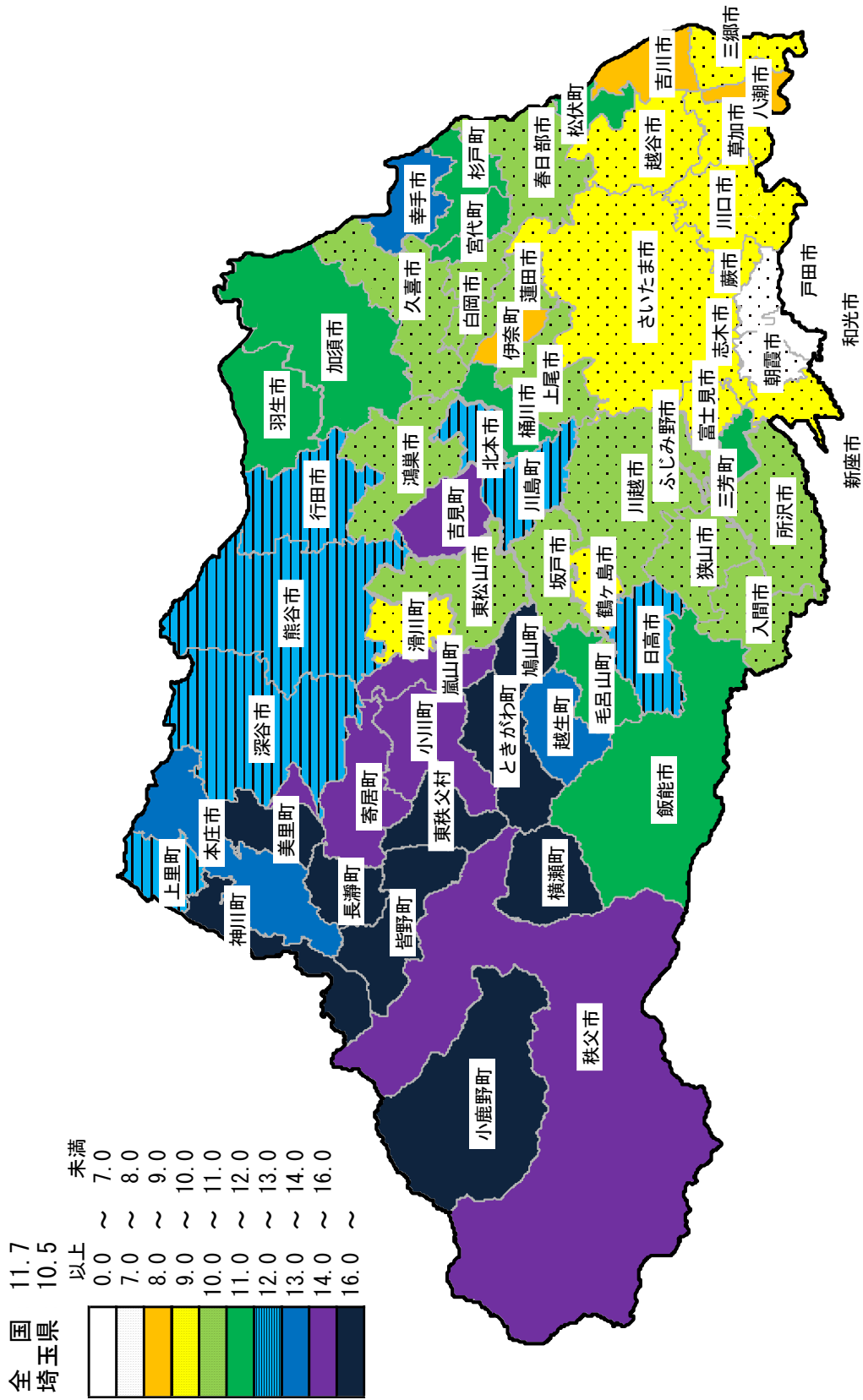
表-20 市町村別にみた死亡率（低率順）

埼玉県								
順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	和光市	6.5	22	坂戸市	10.4	43	熊谷市	12.6
2	戸田市	7.2	23	東松山市	10.6	44	上里町	12.7
3	朝霞市	7.8	24	白岡市	10.6	45	行田市	12.8
4	八潮市	8.2	25	春日部市	10.7	46	川島町	12.9
5	伊奈町	8.6	26	入間市	10.7	47	本庄市	13.0
6	吉川市	8.7	27	狭山市	10.8	48	越生町	13.1
7	滑川町	9.0	28	鴻巣市	10.8	49	幸手市	13.4
8	さいたま市	9.0	29	久喜市	10.9	50	嵐山町	14.0
9	志木市	9.0	30	蓮田市	10.9	51	寄居町	14.3
10	越谷市	9.5	31	松伏町	11.1	52	吉見町	14.6
11	草加市	9.5	32	宮代町	11.1	53	秩父市	15.1
12	富士見市	9.6	33	三芳町	11.4	54	小川町	15.2
13	新座市	9.6	34	加須市	11.4	55	鳩山町	16.0
14	三郷市	9.6	35	杉戸町	11.5	56	皆野町	17.7
15	蕨市	9.7	36	桶川市	11.6	57	ときがわ町	18.1
16	鶴ヶ島市	9.7	37	飯能市	11.7	58	美里町	18.2
17	川口市	9.8	38	毛呂山町	11.8	59	横瀬町	18.4
18	川越市	10.2	39	羽生市	11.9	60	神川町	18.5
19	所沢市	10.2	40	日高市	12.1	61	長瀨町	18.5
20	ふじみ野市	10.2	41	深谷市	12.2	62	小鹿野町	19.3
21	上尾市	10.3	42	北本市	12.3	63	東秩父村	23.7

注1：率は人口千対である。

注2：順位の数出には、小数点第2位以下を考慮している。

図-15 死亡率（人口千対）—市町村別状況—



(3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は62人で、前年より13人減少した。乳児死亡率は出生千人に対し1.4で、前年より0.2ポイント低下した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、21人で前年より11人減少した。新生児死亡率は出生千人に対し0.5で、前年より0.2ポイント低下した。

全国は、乳児死亡率が0.1ポイント低下し1.7、新生児死亡率が前年と同率の0.8であった。（表-21、図-16、図-17）

表-21 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280	257
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616	5 054
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4	3.8
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6	4.3
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168	124
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179	2 615
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7	1.8
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6	2.2

		12	17	22	27	30	R元	2	3	
乳児	数	埼玉県	210	137	133	111	89	88	75	62
		全国	3 830	2 958	2 450	1 916	1 748	1 654	1 512	1 399
	率	埼玉県	3.2	2.3	2.2	2.0	1.7	1.8	1.6	1.4
		全国	3.2	2.8	2.3	1.9	1.9	1.9	1.8	1.7
新生児	数	埼玉県	105	61	62	48	41	36	32	21
		全国	2 106	1 510	1 167	902	801	755	704	658
	率	埼玉県	1.6	1.0	1.0	0.9	0.8	0.7	0.7	0.5
		全国	1.8	1.4	1.1	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8

注：率は出生千対である。

図-16 乳児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

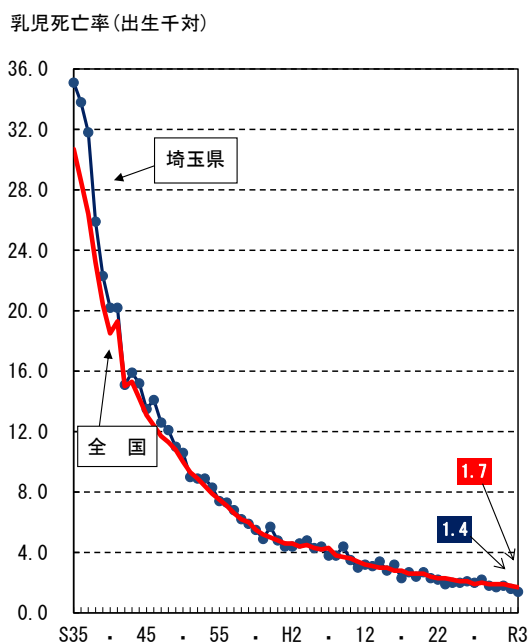
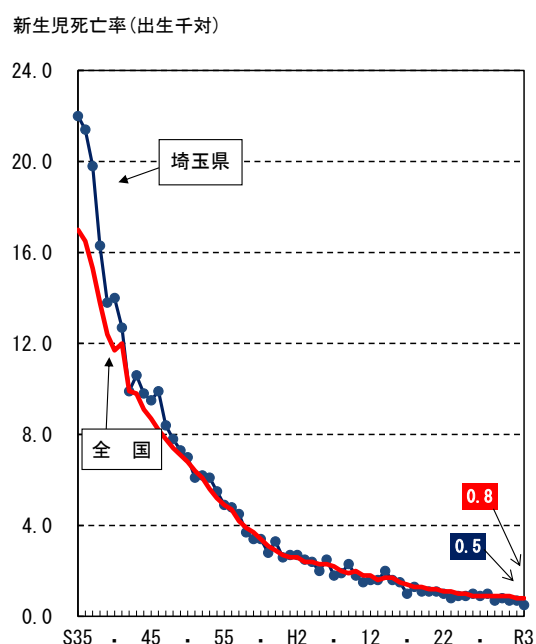


図-17 新生児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)



(4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えて増加していたが、その後急激に減少していき、令和3年は△29,740人で、前年の△23,430人より6,310人拡大した。平成24年に戦後初めて自然減へと転じて以降、年々減少数が拡大している。

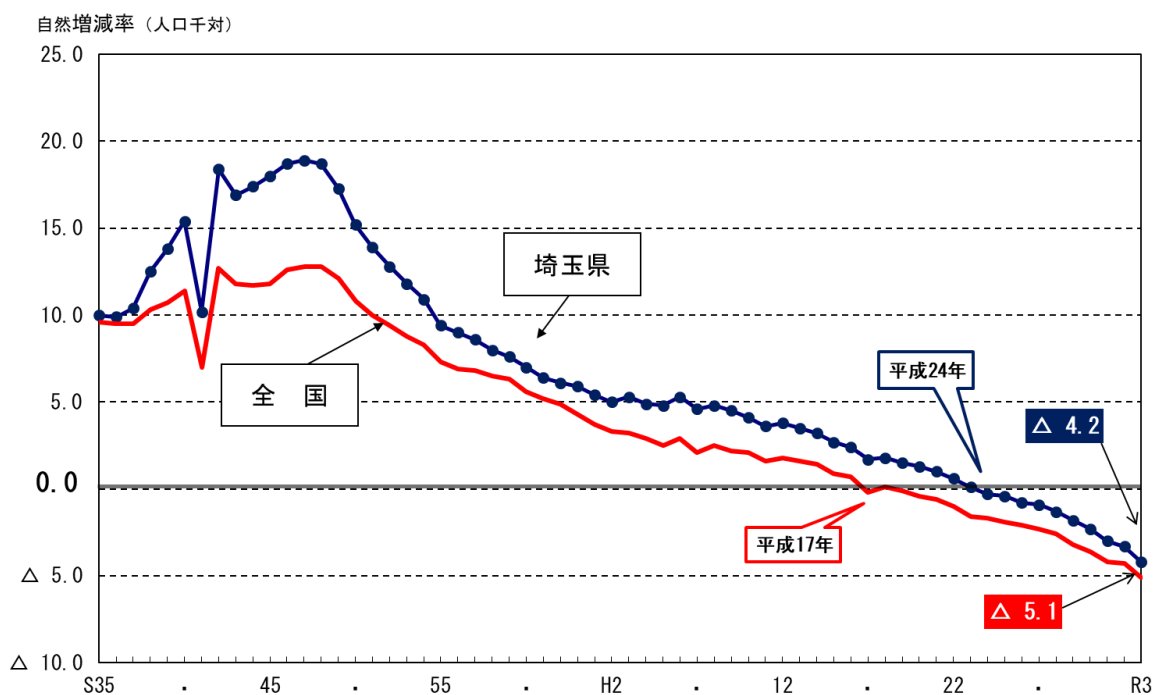
自然増減率は人口千人に対し△4.2であった。（表-22、図-18）

表-22 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077	30 951
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280	264 925
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0	4.6
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3	2.1
		12	17	22	27	30	R元	2	3
数	埼玉県	25 890	11 636	3 950	△ 6 488	△ 16 485	△ 21 239	△ 23 430	△ 29 740
	全国	228 894	△ 21 266	△ 125 709	△ 284 789	△ 444 070	△ 515 854	△ 531 920	△ 628 234
率	埼玉県	3.8	1.7	0.6	△ 0.9	△ 2.3	△ 3.0	△ 3.3	△ 4.2
	全国	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 2.3	△ 3.6	△ 4.2	△ 4.3	△ 5.1

注：率は人口千対である。

図-18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（1.7）、戸田市（0.8）、朝霞市（0.4）の順である。

また、低率順では東秩父村（△21.4）、小鹿野町（△16.8）、ときがわ町（△15.2）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より3市（八潮市、吉川市、滑川町）増加して63市町村中60市町村であった。（表－23、図－19）

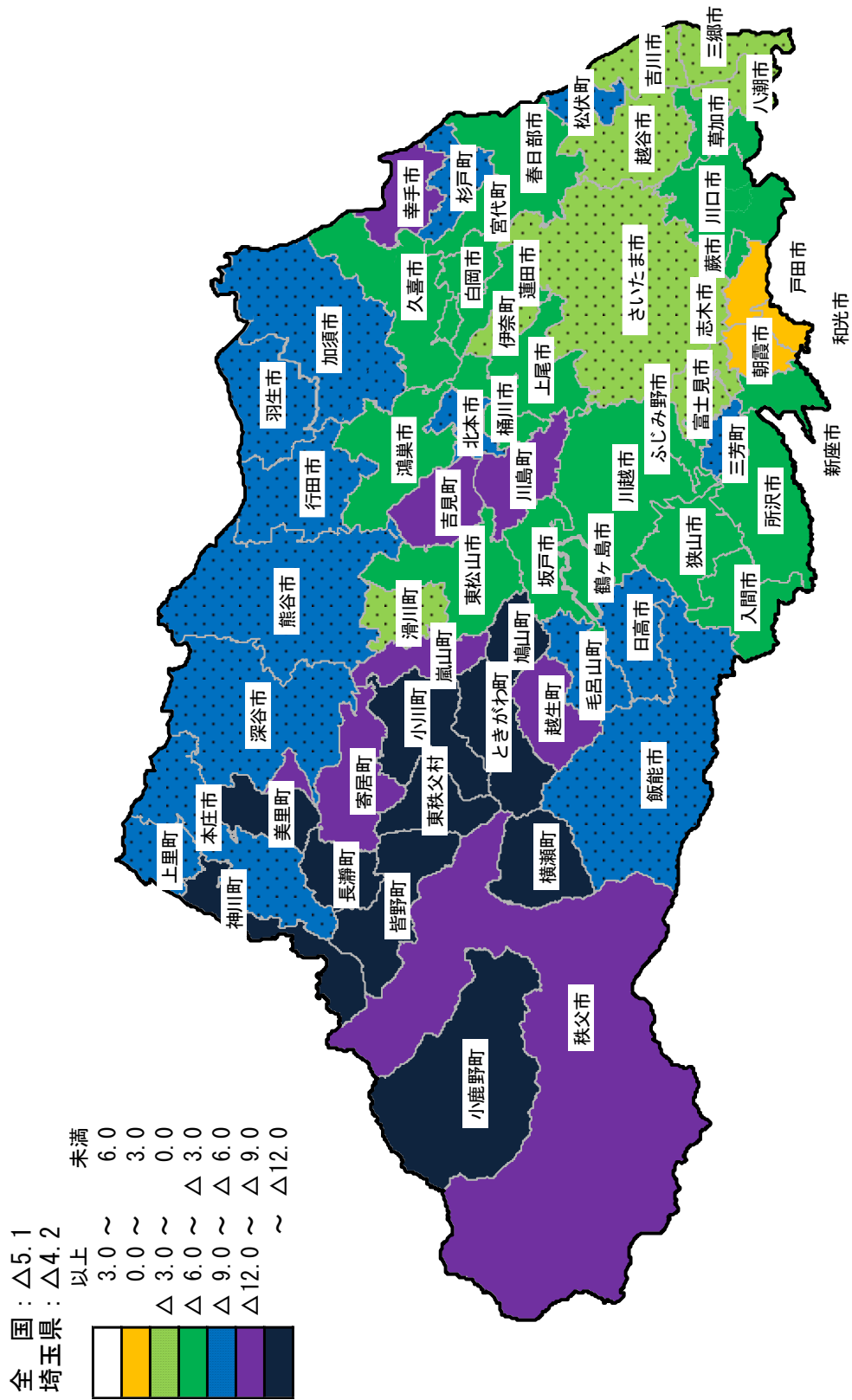
表－23 市町村別にみた自然増減率（高率順）

埼玉県								
順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	1.7	22	東松山市	△ 4.5	43	杉戸町	△ 7.5
2	戸田市	0.8	23	ふじみ野市	△ 4.5	44	上里町	△ 7.6
3	朝霞市	0.4	24	宮代町	△ 4.7	45	行田市	△ 8.2
4	八潮市	△ 0.1	25	鴻巣市	△ 5.2	46	毛呂山町	△ 8.8
5	滑川町	△ 1.3	26	狭山市	△ 5.2	47	越生町	△ 9.4
6	さいたま市	△ 1.7	27	入間市	△ 5.4	48	幸手市	△ 9.8
7	吉川市	△ 1.9	28	春日部市	△ 5.4	49	吉見町	△ 10.1
8	志木市	△ 2.2	29	蓮田市	△ 5.6	50	嵐山町	△ 10.1
9	伊奈町	△ 2.4	30	坂戸市	△ 5.7	51	秩父市	△ 10.2
10	越谷市	△ 2.6	31	久喜市	△ 5.7	52	川島町	△ 10.2
11	三郷市	△ 2.8	32	桶川市	△ 6.0	53	寄居町	△ 10.3
12	富士見市	△ 2.9	33	深谷市	△ 6.1	54	鳩山町	△ 12.3
13	新座市	△ 3.3	34	加須市	△ 6.2	55	小川町	△ 12.4
14	草加市	△ 3.6	35	三芳町	△ 6.5	56	横瀬町	△ 12.5
15	白岡市	△ 3.6	36	熊谷市	△ 7.0	57	皆野町	△ 13.8
16	川口市	△ 3.7	37	羽生市	△ 7.0	58	美里町	△ 13.9
17	上尾市	△ 3.9	38	本庄市	△ 7.1	59	長瀨町	△ 14.2
18	鶴ヶ島市	△ 3.9	39	松伏町	△ 7.2	60	神川町	△ 14.9
19	所沢市	△ 4.0	40	日高市	△ 7.3	61	ときがわ町	△ 15.2
20	川越市	△ 4.2	41	飯能市	△ 7.3	62	小鹿野町	△ 16.8
21	蕨市	△ 4.4	42	北本市	△ 7.3	63	東秩父村	△ 21.4

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図一19 自然増減率(人口千対)一市町村別状況一



(5) 死産

死産数は929胎で、前年より83胎減少した。死産の内訳をみると、自然死産は前年より10胎減少し437胎、人工死産は前年より73胎減少し492胎であった。

死産率は出産千人（胎）に対し20.0で、前年より0.9ポイント低下した。全国は0.4ポイント低下し19.7であった。（表-24、図-20、図-21）

表-24 死産数及び死産率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
死 数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 350	1 123	1 012	929
	全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	22 621	19 454	17 278	16 277
産 率	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	23.5	22.7	20.9	20.0
	全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.0	22.0	20.1	19.7
(自然) 数	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	670	512	447	437
	全国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	12 245	10 864	8 997	8 188	8 082
(自然) 率	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.7	10.4	9.2	9.4
	全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.6	10.2	9.5	9.8
(人工) 数	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	680	611	565	492
	全国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	14 315	11 757	10 457	9 090	8 195
(人工) 率	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	11.8	12.4	11.7	10.6
	全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	11.4	11.8	10.6	9.9

注：率は出産（出生＋死産）千対である。

図-20 死産率の年次推移
(埼玉県・全国)

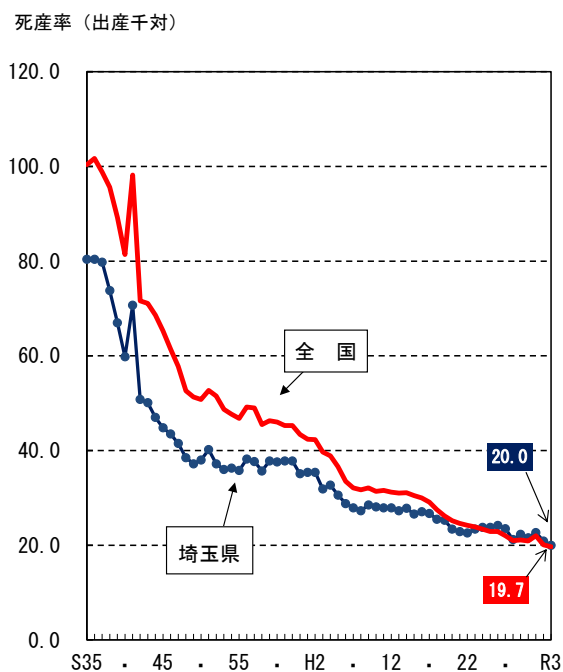
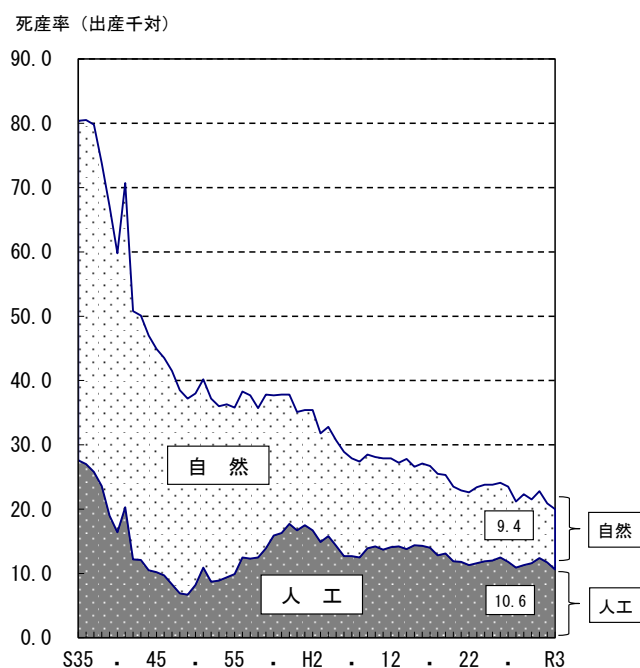


図-21 死産率（自然・人工）の
年次推移（埼玉県）



(6) 周産期死亡

周産期死亡数は126人（胎）で、前年より7人（胎）減少した。

周産期死亡率は出産千人（胎）に対し2.8で、前年と同率であり、全国の3.4を0.6ポイント下回った。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。

（表－25、図－22）

なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表－25 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
周産期死亡	数	埼玉県 1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	208	151	133	126
	全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	3 729	2 955	2 664	2 741
率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	3.7	3.1	2.8	2.8
	全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.4	3.2	3.4
後期死産	数	埼玉県 1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	175	124	107	110
	全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 064	2 377	2 112	2 235
率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.1	2.6	2.3	2.4
	全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	2.7	2.5	2.7
早期新生児死亡	数	埼玉県 605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	33	27	26	16
	全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	665	578	552	506
率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.6	0.6	0.5	0.4
	全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6

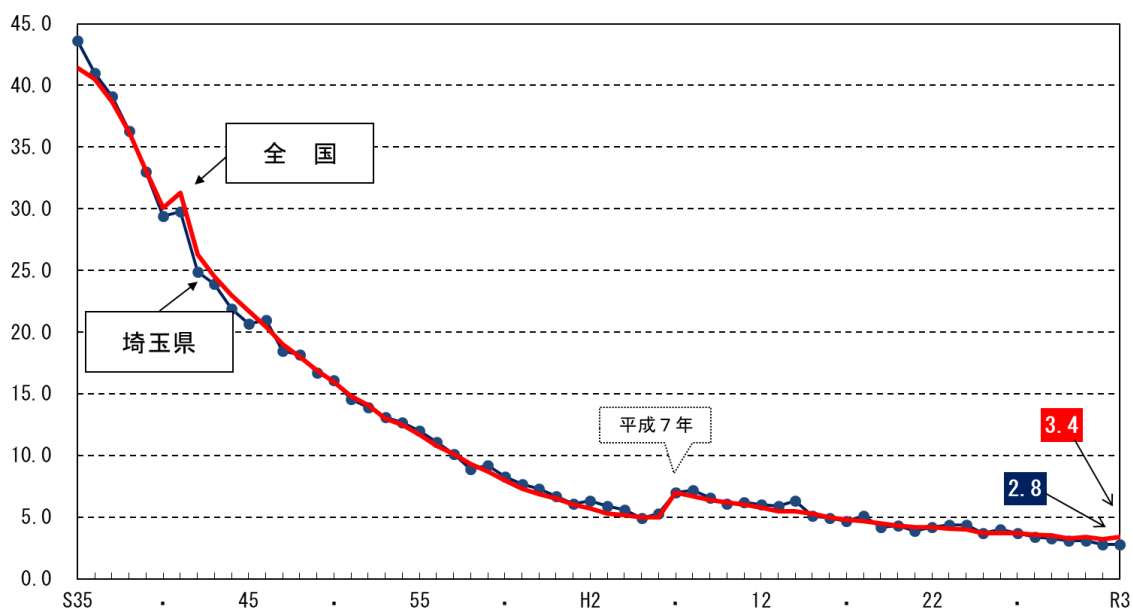
注1：周産期死亡率・後期死産率は出産（出生＋後期死産）千対である。

注2：早期新生児死亡率は出生千対である。

注3：後期死産とは、妊娠満22週以後の死産である。

図－22 周産期死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

周産期死亡率（出産千対）



(7) 婚姻

婚姻件数は28,345組で、前年より915組減少した。

婚姻率は人口千人に対し4.0で、前年より0.1ポイント低下した。全国は前年より0.2ポイント低下し、4.1であった。(表-26)

婚姻率の年次推移をみると、昭和46年の11.7をピークに低下し、昭和62年に上昇に転じたものの、平成5年を境として再び低下傾向である。

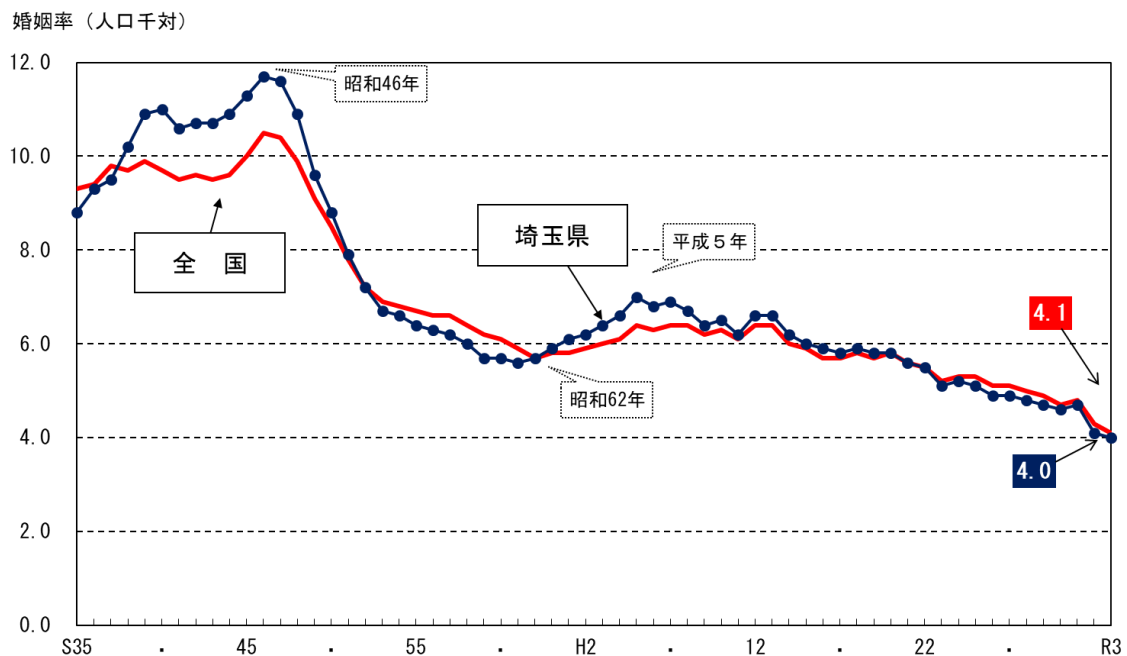
(図-23)

表-26 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	21 485	33 131	43 517	42 340	34 708	33 446	39 234	46 224
	全国	866 115	954 852	1 029 405	941 628	744 702	735 850	722 138	791 888
率	埼玉県	8.8	11.0	11.3	8.8	6.4	5.7	6.2	6.9
	全国	9.3	9.7	10.0	8.5	6.7	6.1	5.9	6.4
		12	17	22	27	30	R元	2	3
数	埼玉県	45 636	40 486	39 160	34 757	32 745	33 671	29 260	28 345
	全国	798 138	714 265	700 222	635 225	586 481	599 007	525 507	501 138
率	埼玉県	6.6	5.8	5.5	4.9	4.6	4.7	4.1	4.0
	全国	6.4	5.7	5.5	5.1	4.7	4.8	4.3	4.1

注：率は人口千対である。

図-23 婚姻率の年次推移（埼玉県・全国）



平均初婚年齢は、夫31.4歳、妻29.6歳で、夫、妻ともに前年と同年齢である。全国は、夫31.0歳、妻29.5歳で、前年と比べると夫は同年齢、妻は0.1歳上昇した。

(表-27)

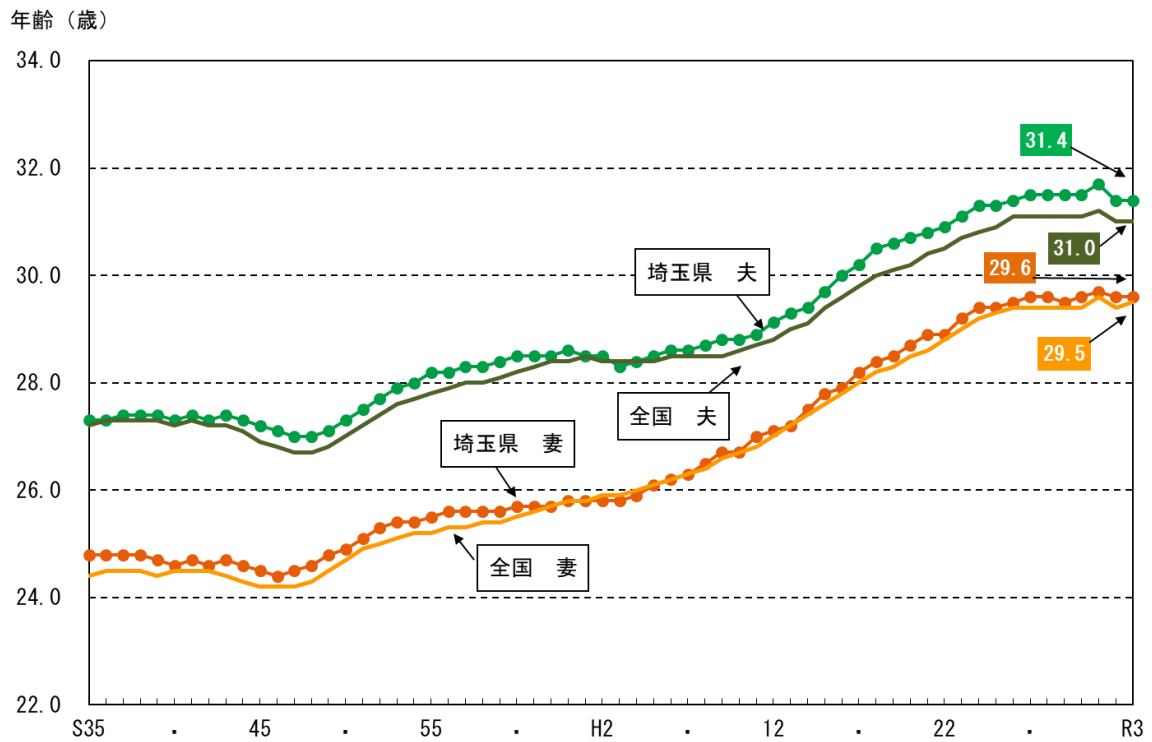
年次推移をみると、埼玉県、全国ともに、近年横ばいの状況が続いている

表-27 平均初婚年齢の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
夫	埼玉県	27.3	27.3	27.2	27.3	28.2	28.5	28.5	28.6	29.1	30.2	30.9	31.5	31.7	31.4	31.4
	全国	27.2	27.2	26.9	27.0	27.8	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.2	31.0	31.0
妻	埼玉県	24.8	24.6	24.5	24.9	25.5	25.7	25.8	26.3	27.1	28.2	28.9	29.6	29.7	29.6	29.6
	全国	24.4	24.5	24.2	24.7	25.2	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.4	29.6	29.4	29.5

注：各届出年に結婚生活に入ったものにより算出している。

図-24 平均初婚年齢の年次推移（埼玉県・全国）



(8) 離婚

離婚件数は10,626組で、前年より33組減少した。

離婚率は人口千人に対し1.49で、前年と同率である。全国は前年より0.07ポイント低下し1.50であった。(表-28)

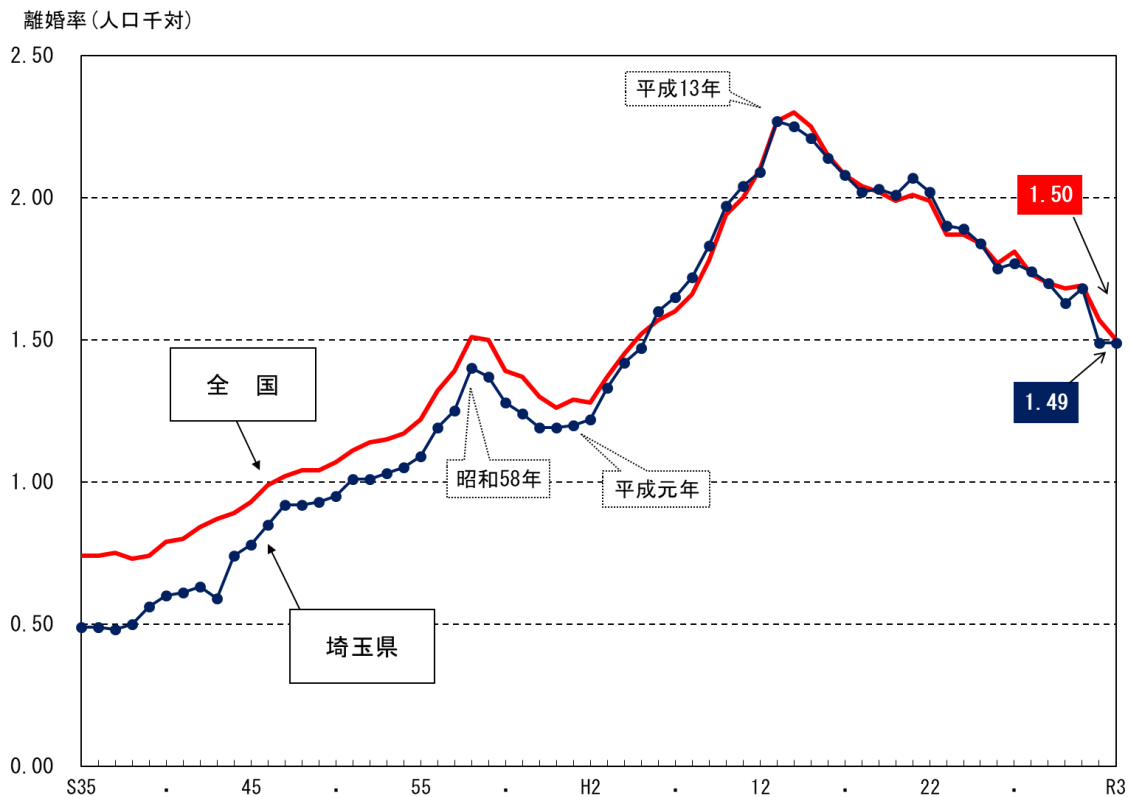
離婚率の年次推移をみると、昭和58年以降一旦低下した後、平成元年から上昇に転じた。平成13年にピークとなった後は減少傾向にある。(図-25)

表-28 離婚件数及び離婚率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	1 182	1 797	2 990	4 584	5 901	7 494	7 775	11 062
	全国	69 410	77 195	95 937	119 135	141 689	166 640	157 608	199 016
率	埼玉県	0.49	0.60	0.77	0.95	1.09	1.28	1.22	1.65
	全国	0.74	0.79	0.93	1.07	1.22	1.39	1.28	1.60
		12	17	22	27	30	R元	2	3
数	埼玉県	14 368	14 521	14 325	12 667	11 716	12 067	10 659	10 626
	全国	264 246	261 917	251 379	226 238	208 333	208 496	193 253	184 384
率	埼玉県	2.09	2.08	2.02	1.77	1.63	1.68	1.49	1.49
	全国	2.10	2.08	1.99	1.81	1.68	1.69	1.57	1.50

注：率は人口千対である。

図-25 離婚率の年次推移（埼玉県・全国）



(9) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は1.22で、前年の1.27より0.05ポイント低下した。全国は前年より0.03ポイント低下し1.30であった。

年齢階級別では30～34歳が最も高く、次いで25～29歳、35～39歳の順となっている。（表-29、図-26）

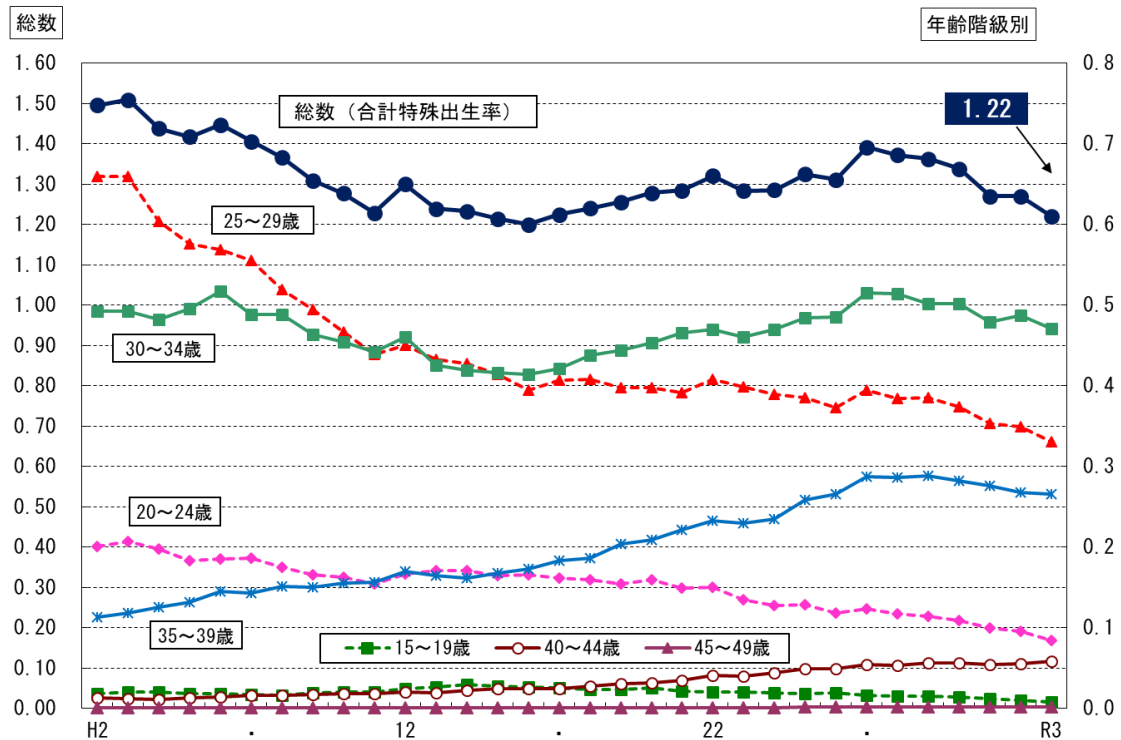
表-29 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

		H2	7	12	17	22	27	R元	2	3
埼玉県	総数 (合計特殊出生率)	1.50	1.41	1.30	1.22	1.32	1.39	1.27	1.27	1.22
	15～19歳	0.02	0.02	0.02	0.0255	0.0200	0.0158	0.0114	0.0097	0.0075
	20～24歳	0.20	0.19	0.17	0.1617	0.1504	0.1234	0.0994	0.0955	0.0843
	25～29歳	0.66	0.56	0.45	0.4071	0.4075	0.3945	0.3528	0.3486	0.3301
	30～34歳	0.49	0.49	0.46	0.4216	0.4693	0.5147	0.4791	0.4872	0.4712
	35～39歳	0.11	0.14	0.17	0.1835	0.2322	0.2871	0.2756	0.2674	0.2653
	40～44歳	0.01	0.02	0.02	0.0246	0.0404	0.0547	0.0546	0.0549	0.0584
	45～49歳	0.00	0.00	0.00	0.0007	0.0010	0.0014	0.0016	0.0017	0.0014
全国	総数 (合計特殊出生率)	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.36	1.33	1.30

注1：数値は、5歳階級別の出生率を合計したものである。ただし、埼玉県の平成27年分、令和2年分と全国の数値は、各歳の年齢別出生率を合計したものである。

注2：算出に用いた出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

図-26 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）（埼玉県）



市町村別にみると、高率順では、滑川町（1.48）、横瀬町（1.47）、宮代町（1.33）の順である。

また、低率順では、川島町（0.64）、小鹿野町（0.64）、東秩父村（0.67）の順である。（表-30、図-27）

表-30 市町村別にみた合計特殊出生率（高率順）

埼玉県								
順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率
1	滑川町	1.48	22	志木市	1.14	43	坂戸市	1.01
2	横瀬町	1.47	23	戸田市	1.13	44	吉見町	1.00
3	宮代町	1.33	24	所沢市	1.13	45	川口市	0.98
4	白岡市	1.30	25	川越市	1.13	46	美里町	0.98
5	長瀬町	1.29	26	日高市	1.12	47	羽生市	0.98
6	八潮市	1.28	27	桶川市	1.11	48	飯能市	0.96
7	伊奈町	1.28	28	蓮田市	1.11	49	行田市	0.96
8	深谷市	1.25	29	鴻巣市	1.10	50	杉戸町	0.93
9	朝霞市	1.24	30	和光市	1.10	51	寄居町	0.91
10	越谷市	1.22	31	鳩山町	1.10	52	越生町	0.90
11	本庄市	1.22	32	草加市	1.09	53	松伏町	0.89
12	東松山市	1.21	33	北本市	1.09	54	嵐山町	0.85
13	さいたま市	1.21	34	春日部市	1.09	55	幸手市	0.84
14	三郷市	1.20	35	三芳町	1.09	56	神川町	0.79
15	上尾市	1.20	36	富士見市	1.08	57	ときがわ町	0.76
16	吉川市	1.19	37	入間市	1.08	58	蕨市	0.75
17	新座市	1.18	38	ふじみ野市	1.08	59	毛呂山町	0.75
18	狭山市	1.18	39	加須市	1.07	60	小川町	0.74
19	熊谷市	1.16	40	上里町	1.06	61	東秩父村	0.67
20	秩父市	1.15	41	久喜市	1.05	62	小鹿野町	0.64
21	鶴ヶ島市	1.15	42	皆野町	1.04	63	川島町	0.64

注1：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図一27 合計特殊出生率—市町村別状況—

